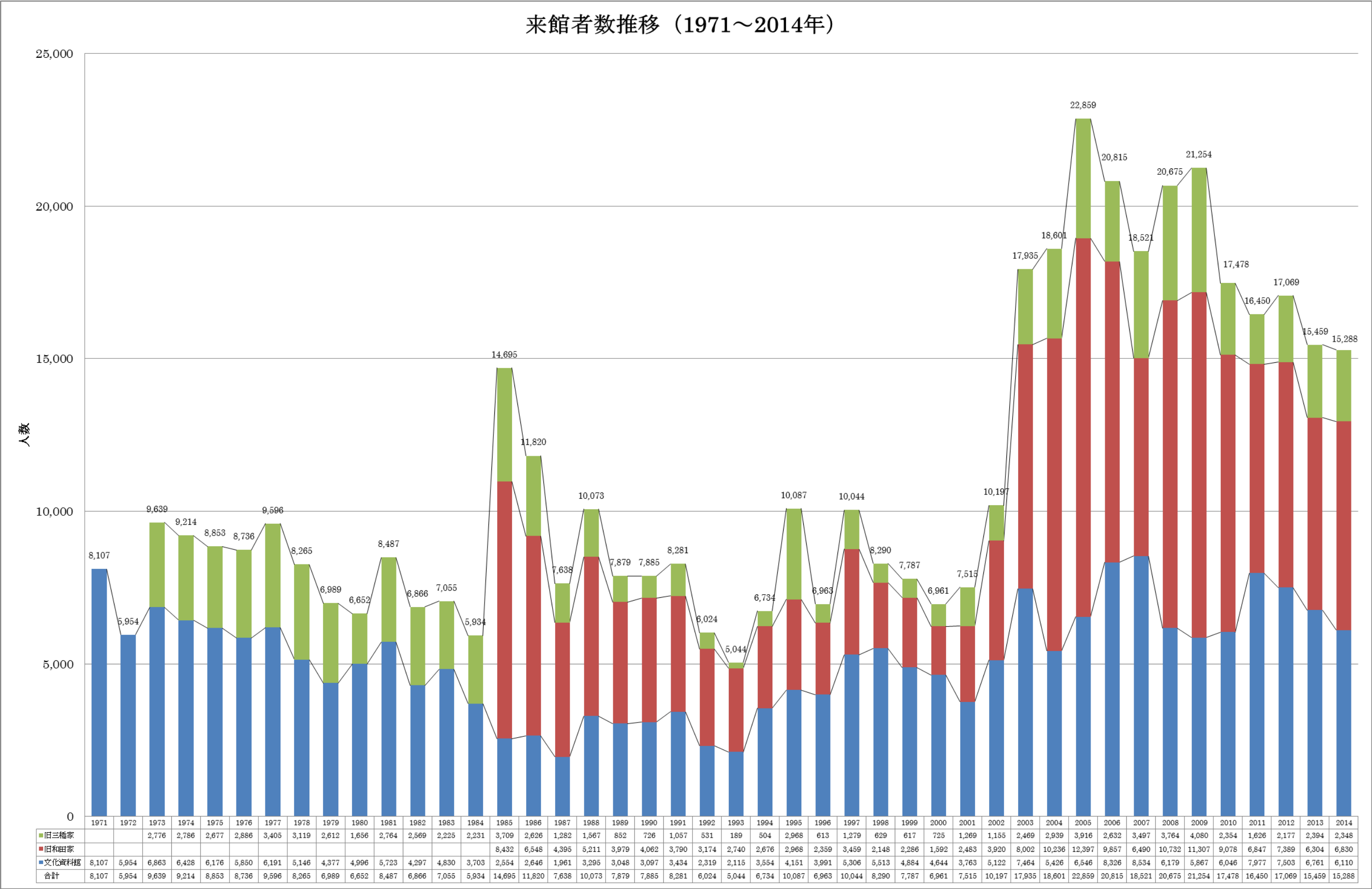


資料編

1	茅ヶ崎市文化資料館・旧和田家・旧三橋家の来館者数推移	1
2	運営方式の概要とメリット・デメリット比較	2
3	新資料館の来館者数予測	2
4	建設事業費	16
5	アドバイザー会議、市民ワークショップ、文化財保護審議会の開催経過	16
6	基本計画への意見集約資料	19

1 茅ヶ崎市文化資料館・旧和田家・旧三橋家の来館者数の推移



2 運営方式の概要とメリット・デメリットの比較

	公設公営 (直営)	公設民営 (指定管理者制度)	公設民営 (直営・指定管理者制度併用)	P F I
概要	◆設立から資料館の事業、及び管理運営までを全て行政が負担する。	◆行政が設立し、管理運営を指定管理者（民間事業者、財団、NPO法人など）に委託する。	◆学芸員や教育普及活動など、文化財や社会教育にかかわる業務は行政が直営で負担する。 ◆施設の維持管理、集客や利用者サービスなどについては、指定管理者に委託する。	◆公共施設などの設計、建設、維持管理及び運営を、民間の資金とノウハウを活用して行う。
メリット	○全事業が直営のため、一元的な管理運営がしやすい。 ○事業の継続性・専門性の担保がしやすい。 ○行政の中長期的な政策と連動した運営や、市内他施設との人材・技術交流が可能である。	○民間的な経営ノウハウの活用により、合理的な施設管理がしやすい。 ○利用者サービスの向上に民間の発想の活用が可能 ○柔軟な広報活動や集客活動がしやすい。 ○導入手続が、P F I より容易で、開館後でも導入が可能である。	○資料の保全は、行政が責任をもって担保しながら、維持管理、利用者サービス、広報などについては民間への委託により柔軟な運営ができる。 ○地域に関する情報を、行政が収集し、他部局と共有化しやすい。	○設計、建設、運営にいたる事業費の全て、または一部を一体的に扱うことにより事業コストの削減が可能である。 ○対価を分割して支払うことで、財政支出を平準化し、行政のリスク負担の軽減化が可能である。 ○施設管理や利用者サービス、広報などに民間のノウハウを活用しやすい。 ○指定管理者制度よりは、事業期間が長く、継続性に有利である。
デメリット	●運営におけるコスト意識が希薄化しやすい。 ●利用者サービスやPRが硬直化しやすい。 ●予算配分や人員配置について、財政事情の影響を受けやすい。	●専門的なノウハウの蓄積や人材の継続性が保ちにくい。 ●短期間で指定管理者が変わる可能性があり、継続性を担保しにくい。 ●コストダウンが職員の雇用条件の低下（低額、短期）につながりやすい。	●一つの施設に二つの組織が存在するため、意見の調整が常に必要である。 ●両組織の業務形態や意識の違いと、相互の利点を生かす工夫が必要である。	●業務範囲を定める要求水準書の作成や選定作業などが複雑で長期間を要する。 ●契約後に要求水準書の不備が発覚しても変更ができない。 ●コストダウンが職員の雇用条件の低下（低額、短期）につながりやすい。 ●専門的なノウハウの蓄積や人材の継続性が保ちにくい。 ●行政にとっては民間事業者の倒産などのリスクがある。また事業者側のリスク負担は指定管理者制度よりも大きい。

3 新資料館の来館者数予測

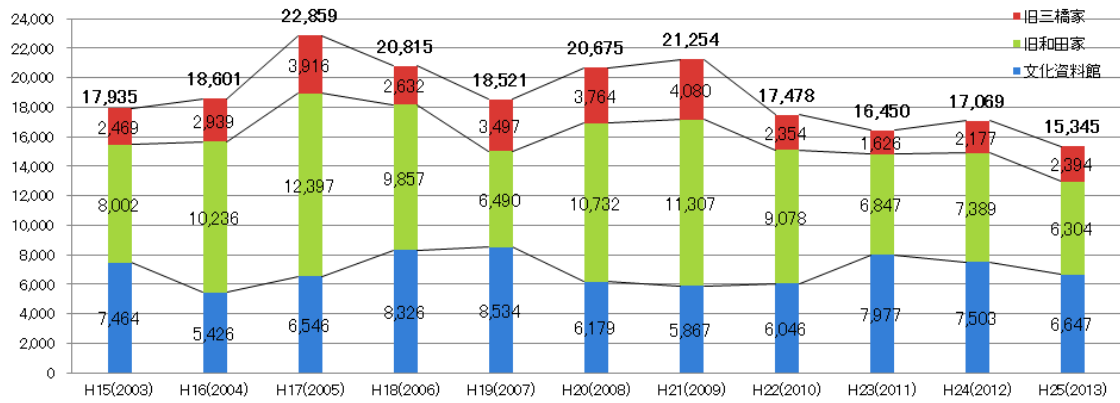
新資料館の来館者数予測は、整備基本計画における想定規模や事業活動をもとに、年間利用者数の目標設定を行い、今後の事業推進に向けた基礎資料とします。新資料館の立地は、現民俗資料館の近くでもあり、現状の入館者数を踏まえて検討します。

(1) 現資料館と民俗資料館の利用状況

ア 学校教育による利用（平成 21 年度～25 年度実績）

- (ア) 小中学生による個人利用 約 400 人／年
- (イ) 総合的な学習の時間などによる団体利用 約 1,300 人／年
- (ウ) 職業体験学習 約 10 人／年
- (エ) 博物館実習生 約 10 人／年

イ 入館者数の推移（平成 15 年度～25 年度実績）



ウ 事業活動（平成 25 年度実績）

- (ア) 資料整理ボランティア（80 人）による資料整理 活動日数：154 日（開館日数 305 日）
- (イ) 調査活動 10 回
- (ウ) 教育普及活動 14 回（自然観察会、遺跡・文化財探訪、民俗行事の再現などのワークショップ）
- (エ) 講座・講演会 2 回
- (オ) 企画展・特別展 2 回
- (カ) 刊行物の発行 3 冊

(2) 新博物館の入館者数予測

ア 予測の手法

全国の市町立博物館の施設・運営データや各県市町の人口データなどを統計的に分析し、求められた回帰式（推計式）をもとに、新資料館の入館者数を予測します。

予測の手法は重回帰分析を用います。重回帰分析は展示施設やテーマパーク、大規模イベントの集客予測や、商業施設の売上予測などに最も広く用いられる分析・予測手法です。

なお、この方法で求めた予測値は、現在想定している規模（延床面積 1,700 ㎡）の新資料館を建設した場合に、他の市町立博物館の実績から見込まれる標準的・平均的な入館者数の値を示しています。そのため、参考とした事例は、開館後、数年経過した後の入館者数であることに留意が必要となります。

【主な分析データ一覧】

No	施設名称	年間 入館者数 (人)	都道府県 人口 (万人)	エリア 人口 (万人)	延床面積 (㎡)	展示面積 (㎡)	開館後 経過年数
1	市立函館博物館	10,579	547	28	2,502	1,176	133
2	旭川市博物館	25,809	547	35	4,070	1,882	19
3	八戸市博物館	18,174	138	24	3,767	865	29
4	水戸市立博物館	24,566	296	27	1,923	790	34
5	大磯町郷土資料館	25,349	892	3	1,773	360	24
6	平塚市博物館	72,310	892	26	3,927	1,402	36
7	相模原市立博物館	138,619	892	70	9,510	1,784	17
8	上越市立総合博物館	42,758	239	21	2,463	826	38
9	豊田市郷土資料館	17,306	726	41	1,261	300	45
10	吹田市立博物館	33,712	868	35	3,298	782	20
11	西宮市立郷土資料館	30,389	557	47	1,143	304	27
12	明石市立文化博物館	92,184	557	29	5,039	778	21

※年間入館者数は、2012 年（平成 24 年）度入館者数（上越市立総合博物館のみ 2010 年度）
※都道府県人口、エリア人口は 2012 年 3 月 31 日住民基本台帳人口（新潟県・上越市のみ 2010 年）
※エリア人口は、本来は自然条件、土地条件、道路交通条件、人口・世帯、産業条件、経済条件、文化条件、人口流入・転出、商品流通、都市計画、沿革、その他生活条件を加味して、市町村をグループ化して設定された概念
ここでは、地域博物館として対象となる市町の人口を用いた。

イ 「重回帰分析」の概要

重回帰分析を理解するためには、「目的変数」「説明変数」「予測対象施設」「類似施設」の 4 つが重要な言葉です。

（※変数とは、プログラムのソースコード中で、データを一時的に記憶しておくための領域に固有の名前を付けたもの。変数につけた名前を変数名と呼び、記憶されているデータをその変数の値という。データの入れ物のような存在で、プログラム中で複数のデータを扱いたいときや、同じデータを何度も参照したり計算によって変化させたい場合に利用する。出典：IT用語辞典より）

「目的変数」は、重回帰分析によって予測したい数値です。具体的には、展示施設においては集客数や売上です。

「説明変数」は、「目的変数」の増減に影響を与えているさまざまな環境因子です。

「人口」「施設規模」「周辺居住者の年代」「周辺の商業施設の集積」など、さまざまな項目が考えられます。「予測対象施設」は、今回は当該の茅ヶ崎市の新資料館です。

「類似施設」は、「予測対象施設」と類似する施設です。この類似施設は、新資料館の想定規模や人文系・総合系博物館、近隣博物館などの条件から抽出しました。

重回帰分析では、「類似施設」の「目的変数」と相関関係の強い「説明変数」を見つけて、この「目的変数」と「説明変数」の関係を方程式(これを重回帰式といいます)として導き、この導かれた方程式に「予測対象施設」の「説明変数」の値を代入することによって「予測対象施設」の「目的変数」を計算で求めます。

展示施設の集客予測では、「説明変数」は多くの候補の中から通常 2 つ～5 つ選定します。「類似施設」の数は「説明変数」に 3 を加えた数だけ必要ですので、8 つ以上の「類似施設」が必要となります。

なお、重回帰分析で導かれる重回帰式(予測式・方程式)は下記の形で導かれます。重回帰分析は「類似施設」の「目的変数」と「説明変数」の観測値(実際の値)から「a 偏回帰係数」と「b 定数項」を誘導する分析手法です。

$$Y = a_1X_1 + a_2X_2 + \dots + b$$

Y = 目的変数
a₁、a₂ = 偏回帰係数
b = 定数項
X₁、X₂ = 説明変数

ウ 「類似施設」の「目的変数」「説明変数候補」の観測値

下記に「類似施設」12 施設の「目的変数」となる年間入館者数と、「説明変数候補」となる延床面積と周辺地理情報である人口、世帯、商業、事業所などのデータを一覧表にしました。

【20km 圏】

no	名称	1 年間入館者数(人)	2 年間入館者数÷延床面積	3 延床面積(m ²)	4 人口総数	5 人口(0～4歳)男比	6 人口(5～9歳)男比	7 人口(10～14歳)男比	8 人口(15～19歳)男比	9 人口(20～24歳)男比	10 人口(25～29歳)男比	11 人口(30～34歳)男比	12 人口(35～39歳)男比	13 人口(40～44歳)男比	14 人口(45～49歳)男比	15 人口(50～54歳)男比	16 人口(55～59歳)男比	17 人口(60～64歳)男比	18 人口(65～69歳)男比	19 人口(70～74歳)男比	20 人口(75～79歳)男比	21 人口(80～84歳)男比	22 人口(85歳以上)男比	23 人口(0～4歳)女比	24 人口(5～9歳)女比	25 人口(10～14歳)女比	26 人口(15～19歳)女比	27 人口(20～24歳)女比	28 人口(25～29歳)女比	29 人口(30～34歳)女比
1	市立函館博物館	10,579	4.2	2,502	341,318	1.75	2.00	2.26	2.38	2.08	2.30	2.72	3.33	2.95	2.82	2.92	3.58	4.05	3.09	2.65	2.25	1.51	0.93	1.69	1.90	2.08	2.28	2.17	2.40	2.95
2	旭川市博物館	25,809	6.3	4,070	385,227	1.84	2.00	2.17	2.18	1.82	2.31	2.85	3.23	2.85	2.81	2.93	3.56	4.15	3.28	2.87	2.47	1.62	1.03	1.73	2.00	2.06	2.17	2.13	2.51	3.02
3	八戸市博物館	18,174	4.8	3,767	333,452	1.89	2.28	2.63	2.73	2.02	2.40	2.87	3.38	3.24	3.17	3.33	3.89	3.99	2.97	2.60	2.16	1.33	0.73	1.86	2.17	2.49	2.48	1.86	2.42	2.84
4	水戸市立博物館	24,566	12.8	1,923	752,459	2.19	2.38	2.58	2.50	2.23	2.81	3.22	3.93	3.53	3.22	3.15	3.51	3.71	3.14	2.58	1.97	1.35	0.87	2.04	2.27	2.44	2.35	2.27	2.67	3.09
5	大磯町郷土資料館	25,349	14.3	1,773	1,939,074	2.14	2.31	2.42	2.55	2.97	3.03	3.49	4.26	3.98	3.43	2.89	3.20	3.88	3.31	2.57	1.81	1.08	0.66	2.06	2.23	2.28	2.36	2.50	2.72	3.24
6	平塚市博物館	72,310	18.4	3,927	2,989,804	2.18	2.31	2.40	2.48	2.82	2.97	3.50	4.35	4.06	3.42	2.85	3.13	3.81	3.31	2.63	1.85	1.08	0.65	2.09	2.22	2.27	2.31	2.45	2.73	3.28
7	相模原市立博物館	138,619	14.6	9,510	6,496,402	2.21	2.28	2.37	2.59	3.25	3.24	3.67	4.42	4.22	3.58	2.87	2.97	3.47	2.96	2.40	1.72	1.00	0.59	2.10	2.17	2.25	2.42	2.87	2.97	3.41
8	上越市立総合博物館	42,758	17.4	2,463	224,094	2.10	2.31	2.55	2.28	1.93	2.52	3.01	3.37	3.13	3.00	3.21	3.72	4.15	2.97	2.62	2.35	1.71	1.11	1.97	2.19	2.43	2.22	1.92	2.30	2.79
9	豊田市郷土資料館	17,306	13.7	1,261	2,361,446	2.58	2.60	2.66	2.70	3.12	3.56	3.85	4.47	4.02	3.41	2.83	2.87	3.45	2.83	2.16	1.53	0.93	0.51	2.45	2.49	2.53	2.49	2.74	3.03	3.50
10	吹田市立博物館	33,712	10.2	3,298	7,790,147	2.11	2.19	2.30	2.32	2.63	2.92	3.31	4.10	3.69	3.14	2.65	3.00	3.84	3.29	2.67	1.91	1.08	0.61	2.03	2.08	2.20	2.23	2.66	3.04	3.45
11	西宮市立郷土資料館	30,389	26.6	1,143	5,101,590	2.09	2.11	2.17	2.22	2.66	3.05	3.37	4.07	3.68	3.19	2.73	3.05	3.80	3.13	2.54	1.94	1.15	0.66	2.00	2.01	2.08	2.17	2.78	3.23	3.59
12	明石市立文化博物館	92,184	18.3	5,039	1,728,352	2.06	2.18	2.35	2.42	2.47	2.74	3.04	3.74	3.30	2.99	2.80	3.31	4.06	3.39	2.62	2.02	1.26	0.71	1.97	2.09	2.24	2.34	2.63	2.84	3.21
13	茅ヶ崎市新資料館	—	—	—	4,542,537	2.15	2.26	2.35	2.41	2.78	2.97	3.47	4.31	4.07	3.46	2.87	3.11	3.75	3.26	2.67	1.91	1.13	0.67	2.06	2.17	2.24	2.27	2.47	2.75	3.28

no	名称	30 人口(35～39歳)女比	31 人口(40～44歳)女比	32 人口(45～49歳)女比	33 人口(50～54歳)女比	34 人口(55～59歳)女比	35 人口(60～64歳)女比	36 人口(65～69歳)女比	37 人口(70～74歳)女比	38 人口(75～79歳)女比	39 人口(80～84歳)女比	40 人口(85歳以上)女比	41 人口増減数	42 世帯数	43 世帯数(1人世帯)比	44 世帯数(2人世帯)比	45 世帯数(3人世帯)比	46 世帯数(4人世帯)比	47 世帯数(5人以上世帯)比	48 世帯数(20～29歳の1人世帯)比	49 世帯数(核家族)比	50 世帯数(持ち家)比	51 1世帯当り人員(住宅に住む世帯)	52 総世帯数増加指数	53 世帯数(共同住宅1・2階)比	54 世帯数(共同住宅3～5階)比	55 世帯数(共同住宅6～10階)比	56 世帯数(共同住宅11～14階)比	57 世帯割合(共同住宅)比
1	市立函館博物館	3.63	3.39	3.32	3.42	4.17	4.82	3.91	3.57	3.35	2.62	2.57	-301	149,560	34.16	32.50	17.94	11.23	4.18	4.71	57.55	56.51	2.23	100.24	18.89	12.50	3.98	0.83	2.60
2	旭川市博物館	3.55	3.33	3.26	3.35	4.14	4.84	4.01	3.50	3.08	2.44	2.49	-3,362	168,201	32.48	34.08	17.93	11.49	4.02	4.39	60.23	59.75	2.32	100.27	21.75	8.35	3.13	1.19	2.84
3	八戸市博物館	3.36	3.36	3.35	3.50	4.05	4.25	3.46	3.23	3.06	2.24	2.10	-2,948	124,847	26.18	28.89	20.14	14.34	10.44	3.43	56.82	67.46	2.66	100.21	15.64	5.40	0.60	0.24	2.58
4	水戸市立博物館	3.73	3.38	3.15	3.10	3.52	3.83	3.25	2.74	2.45	2.00	2.17	-1,278	287,259	27.15	28.07	19.77	15.99	9.01	4.83	59.97	65.87	2.48	100.17	14.85	9.65	1.93	0.72	2.92
5	大磯町郷土資料館	3.99	3.62	3.13	2.78	3.28	4.07	3.46	2.73	2.16	1.57	1.63	-372	777,083	29.59	27.53	19.81	16.14	6.94	6.30	61.75	61.92	2.62	100.15	16.02	15.02	5.99	2.91	1.91
6	平塚市博物館	4.08	3.70	3.13	2.74	3.21	4.05	3.54	2.78	2.16	1.54	1.60	314	1,204,915	29.20	28.19	20.05	16.18	6.38	5.67	62.87	62.04	2.61	100.15	16.07	15.95	7.64	3.07	1.74
7	相模原市立博物館	4.16	3.86	3.27	2.74	2.99	3.67	3.23	2.58	2.02	1.42	1.44	3,495	2,761,120	34.73	26.39	18.62	15.11	5.15	8.36	59.07	54.32	2.47	100.16	15.69	24.18	10.81	4.36	1.64
8	上越市立総合博物館	3.21	2.94	2.94	3.09	3.66	3.92	3.19	3.12	3.15	2.80	3.20	-3,248	77,709	24.74	25.93	18.94	15.41	14.98	3.33	51.28	75.39	3.00	100.42	13.26	5.95	1.01	0.34	3.65
9	豊田市郷土資料館	4.21	3.70	3.17	2.72	2.93	3.55	2.91	2.25	1.84	1.33	1.31	2,893	941,129	31.90	24.88	18.55	16.78	7.89	8.36	59.00	56.82	2.88	100.14	11.95	21.35	9.99	3.43	2.58
10	吹田市立博物館	4.19	3.74	3.18	2.73	3.14	4.07	3.63	3.01	2.42	1.69	1.66	3,689	3,448,166	37.49	26.99	17.08	13.52	4.92	6.44	56.03	52.72	2.38	100.24	5.75	20.73	16.95	9.69	1.23
11	西宮市立郷土資料館	4.23	3.77	3.24	2.83	3.13	3.95	3.44	2.98	2.53	1.82	1.75	5,144	2,361,518	41.42	26.11	15.97	12.32	4.17	7.68	52.86	49.52	2.43	100.33	5.41	21.74	19.80	12.59	1.42
12	明石市立文化博物館	3.85	3.41	3.20	3.06	3.49	4.33	3.68	2.99	2.62	1.91	1.86	97	723,632	32.20	28.90	18.42	14.82	5.66	4.76	60.72	62.28	2.59	100.12	6.22	19.91	12.46	9.16	1.86
13	茅ヶ崎市新資料館	4.08	3.76	3.20	2.77	3.18	4.01	3.54	2.86	2.25	1.59	1.61	875	1,862,357	29.99	28.56	19.91	15.90	5.64	5.72	63.00	62.05	2.60	100.14	14.98	18.21	9.91	4.00	1.59

no	名称	58 昼間人口 (総数)比	59 生徒・学生 数(総数)	60 第2次・3次 産業従業者 数	61 昼間人口1 千人当り事 業所数	62 夜間人口1 千人当り事 業所数	63 昼間人口1 千人当り商 品小売店 数	64 夜間人口1 千人当り商 品小売店 数	65 昼間人口1 千人当り飲 食料品小 売店数	66 夜間人口1 千人当り飲 食料品小 売店数	67 昼間人口1 千人当り飲 食店数	68 夜間人口1 千人当り飲 食店数	69 夜間人口1 万人当り病 院・一般診 療所数	70 夜間人口1 万人当り歯 科診療所 数	71 全産業事 業所数	72 小売業事 業所数	73 食料品店 事業所数	74 飲食店事 業所数	75 病院数	76 一般診療 所数	77 歯科診療 所数	78 総合スー パー・店 舗数	79 専門スー パー(衣料 品)・店 舗数	80 専門スー パー(食料 品)・店 舗数	81 専門スー パー(住 間連)・店 舗数	82 コンビニエ ンスストア ・店舗数	83 ドラッグス トア・店 舗数
1	市立函館博物館	99.75	46,172	150,911	13,278	28,794	1,886	3,417	840	1,409	434	810	891	476	17,021	3,727	1,474	1,234	33	232	165	5	17	73	27	154	27
2	旭川市博物館	104.46	48,811	167,009	30,376	50,284	4,262	7,471	2,151	5,031	748	2,480	1,260	717	17,336	3,304	1,000	1,139	45	216	197	7	24	64	28	137	38
3	八戸市博物館	105.51	47,990	139,878	30,628	61,539	5,896	12,390	2,919	6,471	1,104	2,938	1,448	941	15,660	3,650	1,358	780	26	166	129	3	24	49	30	132	27
4	水戸市立博物館	98.38	108,781	354,305	44,785	48,069	8,018	7,797	3,154	2,947	2,383	2,760	2,802	2,365	33,974	7,726	2,627	2,494	77	347	348	8	72	96	84	315	70
5	大磯町郷土資料館	120.44	277,498	789,727	34,940	27,493	4,699	4,494	2,114	2,046	2,087	3,330	2,343	1,837	69,642	14,811	5,288	4,986	97	1,021	961	21	95	219	126	666	178
6	平塚市博物館	134.47	395,986	1,082,967	34,662	43,081	5,253	5,132	2,198	1,657	2,194	2,623	2,864	2,422	96,961	20,576	7,347	6,996	140	1,513	1,449	33	135	324	169	957	259
7	相模原市立博物館	144.79	956,204	2,156,755	48,991	56,816	7,244	7,040	2,630	2,238	4,052	3,540	4,799	3,725	185,717	36,768	12,779	13,153	279	3,275	3,006	60	264	651	375	2,058	570
8	上越市立総合博物館	101.11	29,298	106,952	34,529	34,827	5,588	5,597	2,963	2,449	1,305	1,894	1,181	742	11,927	2,720	968	653	12	112	91	2	17	36	35	63	37
9	豊田市郷土資料館	114.94	413,811	1,009,108	53,966	63,553	7,560	8,296	3,668	3,185	3,572	4,366	3,111	2,642	82,933	15,893	4,748	7,497	112	1,144	1,027	50	129	272	167	804	240
10	吹田市立博物館	93.34	1,115,106	4,042,184	48,288	315,794	8,072	17,497	3,132	3,399	4,179	9,092	6,733	4,321	379,881	70,657	23,679	34,634	525	6,246	4,504	89	206	967	320	2,467	614
11	西宮市立郷土資料館	71.73	748,779	3,285,863	35,670	429,206	5,885	25,465	2,336	6,627	3,750	14,048	7,259	3,593	290,779	53,955	17,356	28,624	368	4,697	3,298	53	140	637	222	1,844	407
12	明石市立文化博物館	103.18	235,477	783,585	29,888	76,811	4,517	7,764	1,565	3,325	2,600	3,397	5,244	1,873	79,278	16,817	5,444	8,282	147	1,356	916	26	75	214	125	492	136
13	茅ヶ崎市新資料館	148.53	584,468	1,443,472	34,205	45,798	5,826	5,700	2,218	1,824	2,490	2,841	3,644	2,988	131,036	27,851	10,014	9,460	205	2,358	2,168	51	164	453	207	1,346	381

【10km 圏】

no	名称	1 年間入館 者数(人)	2 年間入館 者数÷延 床面積	3 延床面積 (㎡)	4 人口総数	5 人口(0～ 4歳)男比	6 人口(5～ 9歳)男比	7 人口(10 ～14歳) 男比	8 人口(15 ～19歳) 男比	9 人口(20 ～24歳) 男比	10 人口(25 ～29歳) 男比	11 人口(30 ～34歳) 男比	12 人口(35 ～39歳) 男比	13 人口(40 ～44歳) 男比	14 人口(45 ～49歳) 男比	15 人口(50 ～54歳) 男比	16 人口(55 ～59歳) 男比	17 人口(60 ～64歳) 男比	18 人口(65 ～69歳) 男比	19 人口(70 ～74歳) 男比	20 人口(75 ～79歳) 男比	21 人口(80 ～84歳) 男比	22 人口(85 歳以上) 男比	23 人口(0～ 4歳)女比	24 人口(5～ 9歳)女比	25 人口(10 ～14歳) 女比	26 人口(15 ～19歳) 女比	27 人口(20 ～24歳) 女比	28 人口(25 ～29歳) 女比	29 人口(30 ～34歳) 女比
1	市立函館博物館	10,579	4.2	2,502	278,988	1.77	1.94	2.16	2.35	2.19	2.36	2.80	3.35	2.95	2.76	2.89	3.55	4.02	3.11	2.63	2.21	1.49	0.90	1.69	1.86	1.97	2.27	2.25	2.48	3.03
2	旭川市博物館	25,809	6.3	4,070	351,561	1.88	2.03	2.17	2.20	1.86	2.37	2.89	3.26	2.86	2.82	2.91	3.55	4.11	3.25	2.80	2.39	1.54	0.96	1.76	2.01	2.06	2.18	2.18	2.59	3.10
3	八戸市博物館	18,174	4.8	3,767	242,818	1.94	2.33	2.61	2.80	2.10	2.46	2.98	3.50	3.32	3.16	3.23	3.77	3.91	3.02	2.55	2.09	1.22	0.64	1.93	2.18	2.46	2.48	1.89	2.54	3.00
4	水戸市立博物館	24,566	12.8	1,923	432,782	2.41	2.47	2.62	2.52	2.24	2.93	3.43	4.21	3.77	3.23	2.95	3.20	3.50	3.04	2.46	1.78	1.17	0.74	2.22	2.35	2.46	2.35	2.30	2.81	3.35
5	大磯町郷土資料館	25,349	14.3	1,773	544,228	2.04	2.26	2.37	2.70	3.32	2.98	3.35	4.06	3.80	3.30	2.92	3.34	4.09	3.45	2.62	1.85	1.12	0.70	1.99	2.16	2.25	2.36	2.56	2.63	3.11
6	平塚市博物館	72,310	18.4	3,927	860,503	2.13	2.31	2.39	2.62	3.13	3.03	3.50	4.24	3.93	3.36	2.84	3.20	3.93	3.38	2.61	1.79	1.07	0.66	2.08	2.22	2.27	2.33	2.51	2.72	3.28
7	相模原市立博物館	138,619	14.6	9,510	1,805,475	2.21	2.33	2.41	2.67	3.27	3.09	3.58	4.43	4.15	3.46	2.84	3.01	3.56	3.13	2.53	1.69	0.92	0.53	2.10	2.19	2.29	2.49	2.90	2.87	3.36
8	上越市立総合博物館	42,758	17.4	2,463	164,300	2.28	2.41	2.65	2.28	2.00	2.66	3.25	3.62	3.31	3.04	3.08	3.54	3.91	2.86	2.45	2.10	1.48	1.01	2.15	2.30	2.50	2.22	2.01	2.45	3.03
9	豊田市郷土資料館	17,306	13.7	1,261	448,666	2.70	2.71	2.72	2.98	3.58	4.41	4.27	4.67	4.06	3.31	2.81	2.93	3.63	2.92	2.08	1.24	0.74	0.41	2.56	2.59	2.55	2.43	2.71	3.15	3.51
10	吹田市立博物館	33,712	10.2	3,298	2,873,585	2.18	2.21	2.31	2.34	2.77	3.10	3.50	4.26	3.81	3.17	2.66	2.96	3.74	3.15	2.56	1.82	1.01	0.57	2.08	2.10	2.20	2.21	2.73	3.15	3.58
11	西宮市立郷土資料館	30,389	26.6	1,143	1,529,185	2.28	2.33	2.34	2.32	2.53	2.67	3.24	4.13	3.80	3.23	2.69	2.87	3.62	2.98	2.38	1.84	1.14	0.66	2.18	2.22	2.25	2.29	2.65	2.94	3.59
12	明石市立文化博物館	92,184	18.3	5,039	730,332	2.21	2.31	2.44	2.60	2.54	2.70	3.01	3.77	3.38	3.10	2.89	3.30	3.93	3.19	2.43	1.91	1.17	0.66	2.09	2.22	2.37	2.47	2.59	2.79	3.23
14	茅ヶ崎市新資料館	—	—	—	1,351,446	2.22	2.35	2.41	2.41	2.72	3.05	3.60	4.44	4.12	3.48	2.82	3.04	3.70	3.28	2.62	1.84	1.07	0.64	2.15	2.28	2.29	2.29	2.43	2.75	3.35

no	名称	30 人口(35 ～39歳) 女比	31 人口(40 ～44歳) 女比	32 人口(45 ～49歳) 女比	33 人口(50 ～54歳) 女比	34 人口(55 ～59歳) 女比	35 人口(60 ～64歳) 女比	36 人口(65 ～69歳) 女比	37 人口(70 ～74歳) 女比	38 人口(75 ～79歳) 女比	39 人口(80 ～84歳) 女比	40 人口(85 歳以上) 女比	41 人口増減数	42 世帯数	43 世帯数(1 人世帯)比	44 世帯数(2 人世帯)比	45 世帯数(3 人世帯)比	46 世帯数(4 人世帯)比	47 世帯数(5 人以上世 帯)比	48 世帯数 (20～29歳 の1人世 帯)比	49 世帯数(核 家族)比	50 世帯数(持 ち家)比	51 1世帯当り 人員(住宅 に住む世 帯)	52 総世帯数 増加指数	53 世帯数(共 同住宅1・ 2階)比	54 世帯数(共 同住宅3 ～5階)比	55 世帯数(共 同住宅6 ～10階)比	56 世帯数(共 同住宅11 ～14階)比	57 世帯割合 (共同住 宅)比
1	市立函館博物館	3.62	3.39	3.28	3.43	4.18	4.85	3.99	3.64	3.39	2.60	2.41	-263	126,779	36.63	32.10	17.31	10.41	3.56	5.30	55.84	52.59	2.42	100.18	20.98	13.60	4.70	0.97	2.39
2	旭川市博物館	3.61	3.38	3.30	3.38	4.16	4.85	3.99	3.44	2.99	2.35	2.36	-587	155,362	33.28	33.83	17.85	11.31	3.73	4.59	59.99	58.32	2.25	100.26	22.78	8.76	3.39	1.29	2.57
3	八戸市博物館	3.50	3.42	3.37	3.45	3.95	4.35	3.53	3.20	2.88	2.03	1.85	439	94,236	28.28	29.02	19.92	13.87	8.91	4.03	57.12	62.21	2.88	100.20	19.12	6.91	0.79	0.32	2.72
4	水戸市立博物館	4.06	3.57	3.18	2.93	3.29	3.80	3.20	2.61	2.21	1.71	1.88	408	174,820	30.82	27.92	19.22	15.19	6.86	5.83	59.51	58.71	2.68	100.15	18.23	13.42	3.04	1.11	2.93
5	大磯町郷土資料館	3.75	3.41	3.05	2.84	3.37	4.18	3.51	2.78	2.21	1.64	1.72	-32	218,122	30.07	27.28	19.64	15.90	7.11	6.56	61.02	62.04	2.49	100.13	16.40	14.58	5.81	2.42	1.95
6	平塚市博物館	3.97	3.59	3.08	2.77	3.27	4.11	3.50	2.72	2.12	1.54	1.61	182	346,387	29.48	27.68	19.96	16.30	6.58	6.31	62.52	61.64	2.56	100.10	16.69	15.81	6.00	2.18	1.82
7	相模原市立博物館	4.16	3.81	3.21	2.76	3.10	3.87	3.39	2.58	1.90	1.28	1.32	2,275	759,462	33.58	26.49	18.95	15.56	5.41	7.72	60.16	56.66	2.50	100.10	14.58	23.82	10.06	4.37	1.67
8	上越市立総合博物館	3.47	3.12	2.99	3.02	3.53	3.79	3.13	2.91	2.84	2.46	2.90	-430	58,891	27.10	25.46	18.84	15.35	13.24	3.98	52.14	70.25	3.19	100.47	16.54	7.17	1.34	0.45	3.85
9	豊田市郷土資料館	4.12	3.42	2.82	2.62	2.98	3.59	2.76	1.88	1.40	1.03	1.03	1,883	172,540	32.25	22.24	18.19	17.33	9.99	11.01	56.66	57.48	2.82	100.10	13.24	15.06	7.49	2.75	3.68
10	吹田市立博物館	4.32	3.80	3.17	2.71	3.10	4.03	3.60	2.96	2.33	1.60	1.55	803	1,290,377	38.66	26.64	16.83	13.24	4.63	7.40	55.65	49.59	2.48	100.08	6.32	23.22	18.28	10.44	1.27
11	西宮市立郷土資料館	4.45	3.97	3.37	2.89	3.18	3.99	3.38	2.86	2.47	1.78	1.71	1,501	669,186	35.24	27.96	18.04	14.33	4.42	6.00	59.09	55.13	2.54	100.09	6.50	26.98	16.84	8.02	1.41
12	明石市立文化博物館	3.94	3.52	3.38	3.17	3.51	4.22	3.47	2.80	2.45	1.77	1.70	-122	296,127	28.41	29.80	19.69	16.46	5.65	4.07	65.15	64.18	2.46	100.09	6.13	24.81	11.09	7.91	1.96
14	茅ヶ崎市新資料館	4.17	3.77	3.15	2.70	3.12	3.99	3.52	2.80	2.17	1.52	1.57	377	546,721	29.12	28.28	20.13	16.33	6.14	5.84	63.40	61.55	2.59	100.10	15.36	16.83	7.57	3.58	1.73

no	名称	58 昼間人口 (総数)比	59 生徒・学生 数(総数)	60 第2次・3次 産業従業者 数	61 昼間人口1 千人当り事 業所数	62 夜間人口1 千人当り事 業所数	63 昼間人口1 千人当り商 品小売店 数	64 夜間人口1 千人当り商 品小売店 数	65 昼間人口1 千人当り飲 食料品小 売店数	66 夜間人口1 千人当り飲 食料品小 売店数	67 昼間人口1 千人当り飲 食店数	68 夜間人口1 千人当り飲 食店数	69 夜間人口1 万人当り病 院・一般診 療所数	70 夜間人口1 万人当り歯 科診療所 数	71 全産業事 業所数	72 小売業事 業所数	73 食料品店 事業所数	74 飲食店事 業所数	75 病院数	76 一般診療 所数	77 歯科診療 所数	78 総合スー パー・店舗 数	79 専門スー パー(衣料 品)・店舗 数	80 専門スー パー(食料 品)・店舗 数	81 専門スー パー(住開 連)・店舗 数	82 コンビニエ ストア・店 舗数	83 ドラッグス トア・店舗 数
1	市立函館博物館	92.95	38,435	134,900	5,255	19,179	957	2,578	367	1,006	276	609	520	345	15,317	3,403	1,341	1,155	30	209	146	5	17	64	24	133	21
2	旭川市博物館	104.93	44,921	155,782	9,562	18,177	1,181	1,860	367	477	306	476	760	601	15,873	3,036	877	1,080	45	206	185	7	24	58	28	125	38
3	八戸市博物館	100.23	36,729	109,995	9,441	35,062	1,985	7,653	906	4,210	277	1,554	740	346	12,046	2,726	962	616	19	147	107	2	19	36	23	99	22
4	水戸市立博物館	90.06	69,685	221,554	13,102	15,142	2,417	2,515	857	817	897	985	1,440	1,039	19,594	4,143	1,289	1,575	47	249	229	4	40	58	50	183	43
5	大磯町郷土資料館	129.85	83,658	192,851	6,561	5,828	1,174	990	479	397	326	357	599	590	18,683	4,113	1,563	1,243	23	265	254	7	28	53	28	178	45
6	平塚市博物館	129.77	132,715	306,996	8,396	8,104	1,443	1,320	555	482	445	491	793	679	29,207	6,062	2,221	1,956	34	425	402	9	30	92	46	299	82
7	相模原市立博物館	138.60	327,009	582,178	10,547	9,551	1,783	1,557	624	511	633	620	1,246	991	50,393	10,000	3,326	3,562	77	828	788	18	92	187	116	553	152
8	上越市立総合博物館	92.72	23,116	86,303	11,594	15,533	2,021	2,619	829	876	551	1,062	751	474	9,099	2,074	671	542	10	94	74	2	16	30	30	50	32
9	豊田市郷土資料館	91.23	74,442	251,796	13,686	11,889	1,443	1,583	576	586	820	1,170	811	662	14,386	2,629	818	1,392	24	155	166	8	23	58	36	167	40
10	吹田市立博物館	96.66	427,953	1,452,798	11,843	15,457	2,171	2,466	831	807	1,176	1,633	2,198	1,410	128,946	23,881	8,173	11,901	167	2,252	1,586	33	80	366	112	924	229
11	西宮市立郷土資料館	128.66	235,948	534,373	9,115	156,668	1,367	4,173	445	792	1,273	3,390	1,261	721	52,759	12,039	4,088	5,340	92	1,349	862	15	46	199	76	429	118
12	明石市立文化博物館	140.60	104,164	216,938	7,569	34,374	1,412	2,105	545	909	436	849	2,895	533	20,214	4,743	1,666	1,949	43	490	309	12	31	91	59	159	54
14	茅ヶ崎市新資料館	125.46	173,530	534,906	9,990	24,735	1,726	2,302	620	584	813	1,168	1,129	991	45,901	9,466	3,267	3,325	54	745	681	17	65	160	79	450	128

エ 「説明変数」の選択

「類似施設」の重回帰分析を行うために「説明変数候補」82 項目から、5 つの「説明変数」に絞り込みます。「説明変数」は絶対にはずせない「延床面積」と、その他 4 つの「目的変数」と関連の高い項目とします。

「目的変数」である「年間入館者数」および「年間入館者数÷延床面積」と「説明変数候補」82 項目の相関係数の降順ランキングが下表です。多変量解析においては、相関係数の絶対値が 0.4 以上であれば相関関係があると判断されます(ランキング表の網掛け部分)。従って、「説明変数」は「延床面積」と下表の網掛け項目の中から 4 項目を選定します。

(ア)「年間入館者数」との相関

20km圏		
順位	no	単相関 相関係数
1	1	年間入館者数(人) 1.0000
2	3	延床面積(㎡) 0.8702
3	58	昼間人口(総数)比 0.6021
4	79	専門スーパー(衣料品)・店舗数 0.5979
5	81	専門スーパー(住関連)・店舗数 0.5930
6	54	世帯数(共同住宅3～5階)比 0.4983
7	27	人口(20～24歳)女比 0.4795
8	83	ドラッグストア・店舗数 0.4739
9	9	人口(20～24歳)男比 0.4656
10	4	人口総数 0.4446
11	13	人口(40～44歳)男比 0.4332
12	59	生徒・学生数(総数) 0.4301
13	67	昼間人口1千人当り飲食店数 0.4194
14	42	世帯数 0.4193
15	14	人口(45～49歳)男比 0.4181
16	82	コンビニエンスストア・店舗数 0.4033
17	70	夜間人口1万人当り歯科診療所数 0.3816
18	12	人口(35～39歳)男比 0.3754
19	69	夜間人口1万人当り病院・一般診療所数 0.3651
20	2	年間入館者数÷延床面積 0.3627
21	80	専門スーパー(食料品)・店舗数 0.3462
22	77	歯科診療所数 0.3394
23	11	人口(30～34歳)男比 0.3391
24	78	総合スーパー・店舗数 0.3305
25	31	人口(40～44歳)女比 0.3243
26	10	人口(25～29歳)男比 0.3152
27	48	世帯数(20～29歳の1人世帯)比 0.3043
28	30	人口(35～39歳)女比 0.2966
29	28	人口(25～29歳)女比 0.2864
30	55	世帯数(共同住宅6～10階)比 0.2824
31	41	人口増減数 0.2821
32	29	人口(30～34歳)女比 0.2724
33	75	病院数 0.2661
34	46	世帯数(4人世帯)比 0.2612
35	73	食料品店事業所数 0.2603
36	76	一般診療所数 0.2519
37	56	世帯数(共同住宅11～14階)比 0.2515
38	61	昼間人口1千人当り事業所数 0.2483
39	72	小売業事業所数 0.2393
40	49	世帯数(核家族)比 0.2324
41	60	第2次・3次産業従業者数 0.2211
42	71	全産業事業所数 0.2085

20km圏		
順位	no	単相関 相関係数
43	5	人口(0～4歳)男比 0.1902
44	23	人口(0～4歳)女比 0.1844
45	26	人口(15～19歳)女比 0.1636
46	63	昼間人口1千人当り商品小売店数 0.1610
47	74	飲食店事業所数 0.1357
48	43	世帯数(1人世帯)比 0.1116
49	8	人口(15～19歳)男比 0.1050
50	18	人口(65～69歳)男比 0.0898
51	45	世帯数(3人世帯)比 0.0670
52	6	人口(5～9歳)男比 0.0288
53	51	1世帯当り人員(住宅に住む世帯) 0.0230
54	24	人口(5～9歳)女比 0.0118
55	32	人口(45～49歳)女比 -0.0257
56	68	夜間人口1千人当り飲食店数 -0.0719
57	25	人口(10～14歳)女比 -0.0929
58	65	昼間人口1千人当り食料品小売店数 -0.0979
59	50	世帯数(持ち家)比 -0.1040
60	62	夜間人口1千人当り事業所数 -0.1081
61	36	人口(65～69歳)女比 -0.1262
62	7	人口(10～14歳)男比 -0.1354
63	53	世帯数(共同住宅1・2階)比 -0.1361
64	19	人口(70～74歳)男比 -0.1493
65	47	世帯数(5人以上世帯)比 -0.1545
66	64	夜間人口1千人当り商品小売店数 -0.1548
67	44	世帯数(2人世帯)比 -0.2295
68	15	人口(50～54歳)男比 -0.2311
69	66	夜間人口1千人当り食料品小売店数 -0.2837
70	20	人口(75～79歳)男比 -0.2922
71	22	人口(85歳以上)男比 -0.2961
72	52	総世帯数増加指数 -0.2966
73	35	人口(60～64歳)女比 -0.2971
74	17	人口(60～64歳)男比 -0.3026
75	21	人口(80～84歳)男比 -0.3156
76	37	人口(70～74歳)女比 -0.3222
77	40	人口(85歳以上)女比 -0.3227
78	16	人口(55～59歳)男比 -0.3628
79	39	人口(80～84歳)女比 -0.3777
80	38	人口(75～79歳)女比 -0.3807
81	57	世帯割合(共同住宅)比 -0.3871
82	33	人口(50～54歳)女比 -0.3961
83	34	人口(55～59歳)女比 -0.4169

10km圏		
順位	no	単相関 相関係数
1	1	年間入館者数(人) 1.0000
2	3	延床面積(㎡) 0.8702
3	58	昼間人口(総数)比 0.7172
4	81	専門スーパー(住関連)・店舗数 0.6065
5	79	専門スーパー(衣料品)・店舗数 0.5857
6	54	世帯数(共同住宅3～5階)比 0.5098
7	27	人口(20～24歳)女比 0.5048
8	49	世帯数(核家族)比 0.4799
9	14	人口(45～49歳)男比 0.4772
10	26	人口(15～19歳)女比 0.4600
11	59	生徒・学生数(総数) 0.4365
12	69	夜間人口1万人当り病院・一般診療所数 0.4116
13	46	世帯数(4人世帯)比 0.4059
14	13	人口(40～44歳)男比 0.3941
15	83	ドラッグストア・店舗数 0.3900
16	4	人口総数 0.3633
17	2	年間入館者数÷延床面積 0.3627
18	31	人口(40～44歳)女比 0.3518
19	41	人口増減数 0.3459
20	45	世帯数(3人世帯)比 0.3450
21	9	人口(20～24歳)男比 0.3437
22	42	世帯数 0.3302
23	78	総合スーパー・店舗数 0.3250
24	12	人口(35～39歳)男比 0.3068
25	82	コンビニエンスストア・店舗数 0.2996
26	56	世帯数(共同住宅11～14階)比 0.2949
27	30	人口(35～39歳)女比 0.2681
28	55	世帯数(共同住宅6～10階)比 0.2532
29	77	歯科診療所数 0.2494
30	80	専門スーパー(食料品)・店舗数 0.2437
31	70	夜間人口1万人当り歯科診療所数 0.2378
32	18	人口(65～69歳)男比 0.1973
33	72	小売業事業所数 0.1692
34	73	食料品店事業所数 0.1645
35	60	第2次・3次産業従業者数 0.1622
36	50	世帯数(持ち家)比 0.1614
37	75	病院数 0.1564
38	76	一般診療所数 0.1551
39	71	全産業事業所数 0.1541
40	8	人口(15～19歳)男比 0.1487
41	28	人口(25～29歳)女比 0.1423
42	29	人口(30～34歳)女比 0.1414

10km圏		
順位	no	単相関 相関係数
43	11	人口(30～34歳)男比 0.1233
44	32	人口(45～49歳)女比 0.1219
45	5	人口(0～4歳)男比 0.1073
46	23	人口(0～4歳)女比 0.1066
47	74	飲食店事業所数 0.0861
48	63	昼間人口1千人当り商品小売店数 0.0844
49	25	人口(10～14歳)女比 0.0776
50	6	人口(5～9歳)男比 0.0744
51	24	人口(5～9歳)女比 0.0517
52	10	人口(25～29歳)男比 0.0417
53	48	世帯数(20～29歳の1人世帯)比 0.0307
54	19	人口(70～74歳)男比 0.0269
55	65	昼間人口1千人当り食料品小売店数 -0.0031
56	7	人口(10～14歳)男比 -0.0186
57	61	昼間人口1千人当り事業所数 -0.0300
58	67	昼間人口1千人当り飲食店数 -0.0427
59	36	人口(65～69歳)女比 -0.0759
60	47	世帯数(5人以上世帯)比 -0.1070
61	44	世帯数(2人世帯)比 -0.1178
62	62	夜間人口1千人当り事業所数 -0.1288
63	43	世帯数(1人世帯)比 -0.1535
64	51	1世帯当り人員(住宅に住む世帯) -0.1549
65	15	人口(50～54歳)男比 -0.1580
66	20	人口(75～79歳)男比 -0.2048
67	52	総世帯数増加指数 -0.2164
68	17	人口(60～64歳)男比 -0.2328
69	68	夜間人口1千人当り飲食店数 -0.2329
70	35	人口(60～64歳)女比 -0.2447
71	66	夜間人口1千人当り食料品小売店数 -0.2499
72	37	人口(70～74歳)女比 -0.2537
73	22	人口(85歳以上)男比 -0.2802
74	33	人口(50～54歳)女比 -0.2846
75	16	人口(55～59歳)男比 -0.2871
76	53	世帯数(共同住宅1・2階)比 -0.2948
77	40	人口(85歳以上)女比 -0.3059
78	21	人口(80～84歳)男比 -0.3102
79	64	夜間人口1千人当り商品小売店数 -0.3159
80	38	人口(75～79歳)女比 -0.3401
81	34	人口(55～59歳)女比 -0.3542
82	57	世帯割合(共同住宅)比 -0.3743
83	39	人口(80～84歳)女比 -0.3744

下表は 10 km圏、20 km圏の 2 種の相関ランキングを示しましたが、20 km圏の方が、網掛け項目が多く、「目的変数」は 20 km圏の地理情報に影響を受けると判断されますので、ここからは 20 km圏の地理情報で分析を進めます。

※相関分析 — 2 つの変数間の類似性の度合いを示す相関係数を求める分析

(イ)「年間入館者数÷延床面積」との相関

20km圏

順位	no	単相関	相関係数
1	2	年間入館者数÷延床面積	1.0000
2	56	世帯数(共同住宅11～14階)比	0.6198
3	69	夜間人口1万人当り病院・一般診療所数	0.6025
4	55	世帯数(共同住宅6～10階)比	0.5824
5	28	人口(25～29歳)女比	0.5793
6	68	夜間人口1千人当り飲食店数	0.5619
7	29	人口(30～34歳)女比	0.5533
8	67	昼間人口1千人当り飲食店数	0.5463
9	27	人口(20～24歳)女比	0.5411
10	10	人口(25～29歳)男比	0.5357
11	12	人口(35～39歳)男比	0.5034
12	11	人口(30～34歳)男比	0.5033
13	41	人口増減数	0.4985
14	54	世帯数(共同住宅3～5階)比	0.4938
15	70	夜間人口1万人当り歯科診療所数	0.4827
16	5	人口(0～4歳)男比	0.4761
17	13	人口(40～44歳)男比	0.4672
18	30	人口(35～39歳)女比	0.4632
19	62	夜間人口1千人当り事業所数	0.4621
20	23	人口(0～4歳)女比	0.4552
21	9	人口(20～24歳)男比	0.4437
22	48	世帯数(20～29歳の1人世帯)比	0.4196
23	74	飲食店事業所数	0.4174
24	60	第2次・3次産業従業者数	0.4160
25	72	小売業事業所数	0.4061
26	64	夜間人口1千人当り商品小売店数	0.3957
27	71	全産業事業所数	0.3937
28	81	専門スーパー(住関連)・店舗数	0.3935
29	73	食料品店事業所数	0.3914
30	77	歯科診療所数	0.3894
31	76	一般診療所数	0.3878
32	82	コンビニエンスストア・店舗数	0.3847
33	79	専門スーパー(衣料品)・店舗数	0.3708
34	14	人口(45～49歳)男比	0.3666
35	83	ドラッグストア・店舗数	0.3653
36	75	病院数	0.3645
37	1	年間入館者数(人)	0.3627
38	42	世帯数	0.3620
39	4	人口総数	0.3566
40	59	生徒・学生数(総数)	0.3555
41	80	専門スーパー(食料品)・店舗数	0.3462
42	78	総合スーパー・店舗数	0.3385

20km圏

順位	no	単相関	相関係数
43	46	世帯数(4人世帯)比	0.3160
44	51	1世帯当り人員(住宅に住む世帯)	0.3146
45	61	昼間人口1千人当り事業所数	0.2843
46	43	世帯数(1人世帯)比	0.2810
47	31	人口(40～44歳)女比	0.2781
48	63	昼間人口1千人当り商品小売店数	0.2324
49	6	人口(5～9歳)男比	0.1995
50	24	人口(5～9歳)女比	0.1705
51	52	総世帯数増加指数	0.1260
52	18	人口(65～69歳)男比	0.1176
53	65	昼間人口1千人当り食料品小売店数	0.0995
54	66	夜間人口1千人当り食料品小売店数	0.0620
55	47	世帯数(5人以上世帯)比	0.0235
56	25	人口(10～14歳)女比	-0.0405
57	3	延床面積(㎡)	-0.0999
58	58	昼間人口(総数)比	-0.1212
59	7	人口(10～14歳)男比	-0.1212
60	50	世帯数(持ち家)比	-0.1443
61	49	世帯数(核家族)比	-0.1959
62	8	人口(15～19歳)男比	-0.2169
63	26	人口(15～19歳)女比	-0.2279
64	17	人口(60～64歳)男比	-0.2505
65	45	世帯数(3人世帯)比	-0.2697
66	19	人口(70～74歳)男比	-0.2792
67	40	人口(85歳以上)女比	-0.2795
68	22	人口(85歳以上)男比	-0.3002
69	21	人口(80～84歳)男比	-0.3394
70	57	世帯割合(共同住宅)比	-0.3553
71	15	人口(50～54歳)男比	-0.3688
72	39	人口(80～84歳)女比	-0.3812
73	20	人口(75～79歳)男比	-0.3903
74	36	人口(65～69歳)女比	-0.3941
75	38	人口(75～79歳)女比	-0.4465
76	32	人口(45～49歳)女比	-0.4623
77	37	人口(70～74歳)女比	-0.4708
78	16	人口(55～59歳)男比	-0.4980
79	35	人口(60～64歳)女比	-0.5434
80	53	世帯数(共同住宅1・2階)比	-0.6131
81	44	世帯数(2人世帯)比	-0.6264
82	33	人口(50～54歳)女比	-0.6411
83	34	人口(55～59歳)女比	-0.6637

10km圏

順位	no	単相関	相関係数
1	2	年間入館者数÷延床面積	1.0000
2	46	世帯数(4人世帯)比	0.6197
3	54	世帯数(共同住宅3～5階)比	0.5814
4	62	夜間人口1千人当り事業所数	0.5685
5	30	人口(35～39歳)女比	0.5626
6	58	昼間人口(総数)比	0.5576
7	23	人口(0～4歳)女比	0.5567
8	5	人口(0～4歳)男比	0.5429
9	13	人口(40～44歳)男比	0.5287
10	14	人口(45～49歳)男比	0.5219
11	67	昼間人口1千人当り飲食店数	0.5137
12	29	人口(30～34歳)女比	0.5136
13	12	人口(35～39歳)男比	0.4893
14	68	夜間人口1千人当り飲食店数	0.4734
15	55	世帯数(共同住宅6～10階)比	0.4733
16	27	人口(20～24歳)女比	0.4678
17	24	人口(5～9歳)女比	0.4543
18	56	世帯数(共同住宅11～14階)比	0.4436
19	6	人口(5～9歳)男比	0.4427
20	31	人口(40～44歳)女比	0.4241
21	1	年間入館者数(人)	0.3627
22	9	人口(20～24歳)男比	0.3346
23	81	専門スーパー(住関連)・店舗数	0.3287
24	28	人口(25～29歳)女比	0.3283
25	41	人口増減数	0.3203
26	25	人口(10～14歳)女比	0.3129
27	11	人口(30～34歳)男比	0.3117
28	49	世帯数(核家族)比	0.2943
29	69	夜間人口1万人当り病院・一般診療所数	0.2879
30	59	生徒・学生数(総数)	0.2570
31	76	一般診療所数	0.2522
32	83	ドラッグストア・店舗数	0.2502
33	50	世帯数(持ち家)比	0.2500
34	4	人口総数	0.2452
35	45	世帯数(3人世帯)比	0.2397
36	77	歯科診療所数	0.2306
37	42	世帯数	0.2233
38	10	人口(25～29歳)男比	0.2120
39	7	人口(10～14歳)男比	0.1959
40	80	専門スーパー(食料品)・店舗数	0.1928
41	78	総合スーパー・店舗数	0.1799
42	79	専門スーパー(衣料品)・店舗数	0.1796

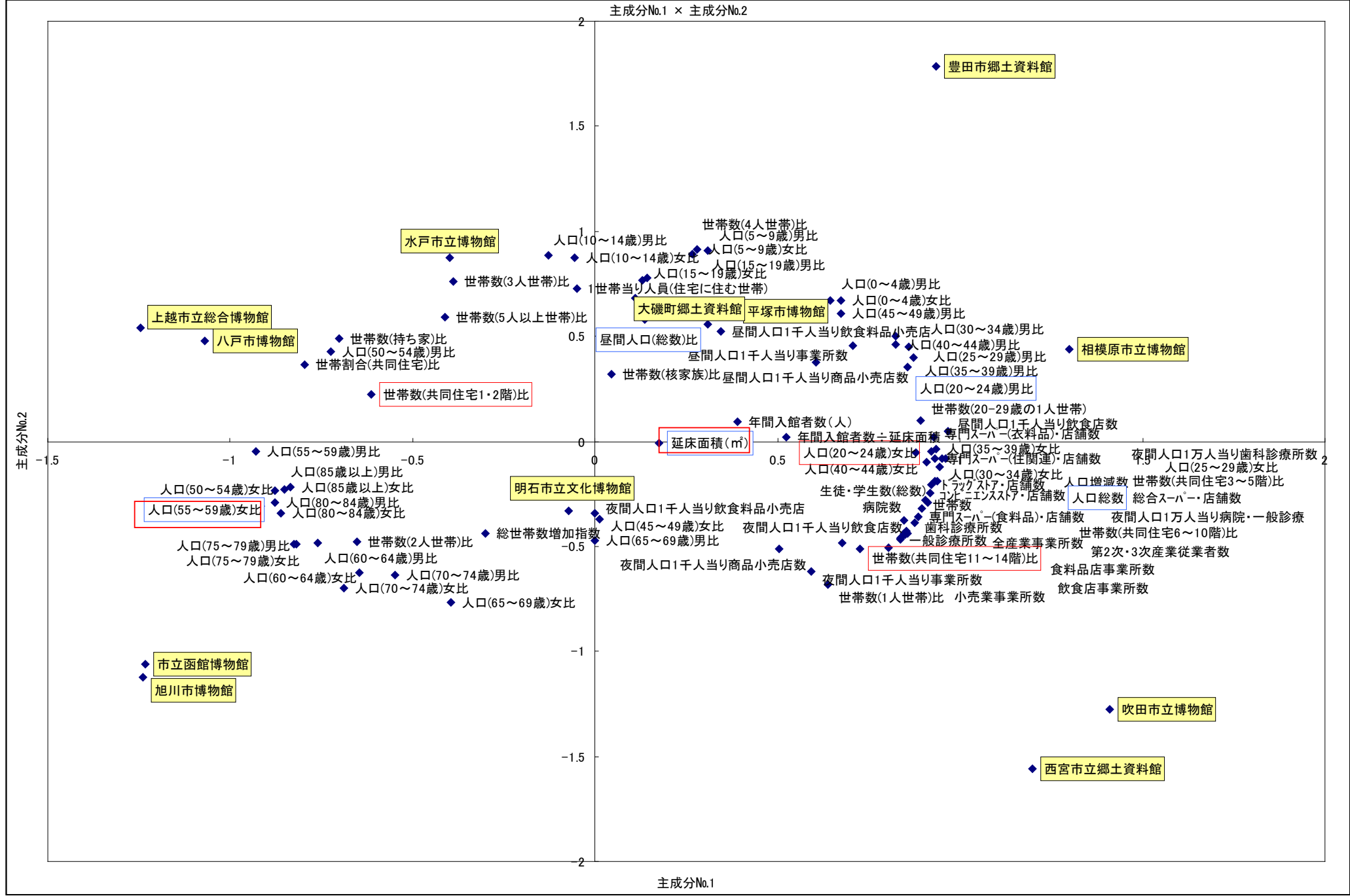
10km圏

順位	no	単相関	相関係数
43	72	小売業事業所数	0.1730
44	73	食料品店事業所数	0.1713
45	82	コンビニエンスストア・店舗数	0.1553
46	70	夜間人口1万人当り歯科診療所数	0.1459
47	74	飲食店事業所数	0.1456
48	51	1世帯当り人員(住宅に住む世帯)	0.1413
49	47	世帯数(5人以上世帯)比	0.1352
50	75	病院数	0.1273
51	48	世帯数(20～29歳の1人世帯)比	0.1196
52	71	全産業事業所数	0.1059
53	60	第2次・3次産業従業者数	0.0962
54	61	昼間人口1千人当り事業所数	0.0947
55	26	人口(15～19歳)女比	0.0822
56	63	昼間人口1千人当り商品小売店数	-0.0032
57	8	人口(15～19歳)男比	-0.0111
58	18	人口(65～69歳)男比	-0.0835
59	3	延床面積(㎡)	-0.0999
60	65	昼間人口1千人当り食料品小売店数	-0.1069
61	32	人口(45～49歳)女比	-0.1086
62	43	世帯数(1人世帯)比	-0.1825
63	52	総世帯数増加指数	-0.1864
64	22	人口(85歳以上)男比	-0.2134
65	64	夜間人口1千人当り商品小売店数	-0.2240
66	57	世帯割合(共同住宅)比	-0.2315
67	40	人口(85歳以上)女比	-0.2363
68	21	人口(80～84歳)男比	-0.3277
69	17	人口(60～64歳)男比	-0.3675
70	39	人口(80～84歳)女比	-0.3767
71	20	人口(75～79歳)男比	-0.4153
72	66	夜間人口1千人当り食料品小売店数	-0.4178
73	44	世帯数(2人世帯)比	-0.4251
74	15	人口(50～54歳)男比	-0.4262
75	38	人口(75～79歳)女比	-0.4375
76	19	人口(70～74歳)男比	-0.4403
77	36	人口(65～69歳)女比	-0.4938
78	37	人口(70～74歳)女比	-0.4972
79	33	人口(50～54歳)女比	-0.5616
80	35	人口(60～64歳)女比	-0.5837
81	16	人口(55～59歳)男比	-0.6065
82	53	世帯数(共同住宅1・2階)比	-0.6402
83	34	人口(55～59歳)女比	-0.6527

「説明変数」4つは、相関係数の絶対値が大きいこと、説明変数間で干渉しない（これを「マルチコリニアリティ（多重共線性）が発生していない」といいます）ことが必要です。そのためには、次の主成分分析散布図の座標が、極端に近接していない説明変数を選定することが必要です。

※主成分分析散布図 ー 説明変数間の類似性を2次元の座標上に記した分布図

【20km 圏 12 サンプルを対象とした主成分分析散布図】



相関係数の絶対値が大きく、マルチコリニアリティの発生の可能性が低い（上図で極端に近接していない）説明変数として下記を選定しました。

目的変数	A. 年間入館者数	B. 年間入館者数÷延床面積
説明変数	延床面積（㎡）	延床面積（㎡）
	人口総数（人）	人口（20～24 歳）女比
	人口（20～24 歳）男比	人口（55～59 歳）女比
	人口（55～59 歳）女比	世帯数比（共同住宅 1・2 階）
	昼間人口比（総数）	世帯数比（共同住宅 11～14 階）

オ サンプルの除外

「類似施設」12 施設の中から、延床面積と地理情報以外の因子で「目的変数」が決定されている施設があればこれを除外しなければなりません。そのために事前に重回帰分析を行い、予測式で計算された目的変数の値と観測値の残差が大きい施設を抽出しました。

5 つの「説明変数」の組み合わせで 16 パターンの重回帰分析を行い、いずれの残差も大きかった網掛け（グリーン）の施設（「年間入館者数」目的変数では 2 施設、「年間入館者数÷延床面積」目的変数では 3 施設）を最終的な重回帰分析対象から除外しました。

(ア) 20km 圏（目的変数「年間入館者数」）

no	商圏値	名称	住所	年間入館者数 (人)	延床面積 (㎡)	人口総数	人口(20～24 歳) 男比	人口(55～59 歳) 女比	昼間人口比(総数)
1	20km	市立函館博物館	北海道函館市青柳町 17-1	10,579	2,502	341,318	2.08	4.17	99.75
2	20km	旭川市博物館	北海道旭川市神楽 3 条 7 丁目	25,809	4,070	385,227	1.82	4.14	104.46
3	20km	八戸市博物館	青森県八戸市大字根城字東構 35-1	18,174	3,767	333,452	2.02	4.05	105.51
4	20km	水戸市立博物館	茨城県水戸市大町 3 丁目 3-20	24,566	1,923	752,459	2.23	3.52	98.38
5	20km	大磯町郷土資料館	神奈川県中郡大磯町西小磯 460	25,349	1,773	1,939,074	2.97	3.28	120.44
6	20km	平塚市博物館	神奈川県平塚市浅間町 12-41	72,310	3,927	2,989,804	2.82	3.21	134.47
7	20km	相模原市立博物館	神奈川県相模原市中央区高根 3 丁目 1-1 5	138,619	9,510	6,496,402	3.25	2.99	144.79
8	20km	上越市立総合博物館	新潟県上越市本城町 7-7	42,758	2,463	224,094	1.93	3.66	101.11
9	20km	豊田市郷土資料館	愛知県豊田市陣中町 1 丁目 2 1-2	17,306	1,261	2,361,446	3.12	2.93	114.94
10	20km	吹田市立博物館	大阪府吹田市岸部北 4 丁目 1 0-1	33,712	3,298	7,790,147	2.63	3.14	93.34
11	20km	西宮市立郷土資料館	兵庫県西宮市川添町 1 5-2 6	30,389	1,143	5,101,590	2.66	3.13	71.73
12	20km	明石市立文化博物館	兵庫県明石市上ノ丸 2 丁目 1 3-1	92,184	5,039	1,728,352	2.47	3.49	103.18
13	20km	茅ヶ崎文化資料館	神奈川県茅ヶ崎市堤 3786 番	-	-	4,542,537	2.78	3.18	148.53

(イ) 20km 圏（目的変数「年間入館者数÷延床面積」）

no	商圏値	名称	住所	年間入館者数÷延 床面積	延床面積 (㎡)	人口(20～24 歳) 女比	人口(55～59 歳) 女比	世帯数比(共同住 宅 1・2 階)	世帯数比(共同住 宅 11～14 階)
1	20km	市立函館博物館	北海道函館市青柳町 17-1	4.2	2,502	2.17	4.17	18.89	0.83
2	20km	旭川市博物館	北海道旭川市神楽 3 条 7 丁目	6.3	4,070	2.13	4.14	21.75	1.19
3	20km	八戸市博物館	青森県八戸市大字根城字東構 35-1	4.8	3,767	1.86	4.05	15.64	0.24
4	20km	水戸市立博物館	茨城県水戸市大町 3 丁目 3-20	12.8	1,923	2.27	3.52	14.85	0.72
5	20km	大磯町郷土資料館	神奈川県中郡大磯町西小磯 460	14.3	1,773	2.50	3.28	16.02	2.91
6	20km	平塚市博物館	神奈川県平塚市浅間町 12-41	18.4	3,927	2.45	3.21	16.07	3.07
7	20km	相模原市立博物館	神奈川県相模原市中央区高根 3 丁目 1-1 5	14.6	9,510	2.87	2.99	15.69	4.36
8	20km	上越市立総合博物館	新潟県上越市本城町 7-7	17.4	2,463	1.92	3.66	13.26	0.34
9	20km	豊田市郷土資料館	愛知県豊田市陣中町 1 丁目 2 1-2	13.7	1,261	2.74	2.93	11.95	3.43
10	20km	吹田市立博物館	大阪府吹田市岸部北 4 丁目 1 0-1	10.2	3,298	2.66	3.14	5.75	9.69
11	20km	西宮市立郷土資料館	兵庫県西宮市川添町 1 5-2 6	26.6	1,143	2.78	3.13	5.41	12.59
12	20km	明石市立文化博物館	兵庫県明石市上ノ丸 2 丁目 1 3-1	18.3	5,039	2.63	3.49	6.22	9.16
13	20km	茅ヶ崎文化資料館	神奈川県茅ヶ崎市堤 3786 番	-	-	2.47	3.18	14.98	4.00

カ 予測式の選定

「A. 年間入館者数」を目的変数とした重回帰分析 16 パターン、「B. 年間入館者数÷延床面積」を目的変数とした重回帰分析 16 パターンを行った結果の一覧表です。

重回帰分析選定には、重要な下記の 2 つの視点から選定します。

- ・修正済み決定係数の値が大きい
- ・マルチコリニアリティが発生していない

よって、表に○を記した A の NO. 12 が最も予測式にふさわしいと考えられます。

また、B では NO. 5 の精度が最も高かったので、これを参考式とします。

※修正済み決定係数 — 実際の観測値と予測式から求めた理論値から予測式のあてはまりの良さを表す値で、一般的に 0.5 以上が望ましいとされている。

重回帰分析（目標変数「A. 年間入館者数」）

(ア) 一覧

(7) 一覽

					1	2	3	4	5			
					目的変数	説 明 変 数						
	No.	修正済決定係数	修正済重相関係数	決定係数順位	年間入館者数 (人)	延床面積 (㎡)	人口総数	人口(20～24 歳)男比	人口(55～59 歳)女比	昼間人口比 (総数)	マルチコ	
1	NO.1	0.8596	0.9272	7	目的変数	a	b	c	d	e		
2	NO.2	0.8830	0.9397	1	目的変数	a	b	c	d			
3	NO.3	0.7596	0.8715	11	目的変数	a	b	c		e	○	
4	NO.4	0.8710	0.9333	4	目的変数	a	b		d	e		
5	NO.5	0.8709	0.9332	5	目的変数	a		c	d	e		
6	NO.6	0.6205	0.7877	13	目的変数		b	c	d	e		
7	NO.7	0.7929	0.8905	8	目的変数	a	b	c			○	
8	NO.8	0.8826	0.9395	2	目的変数	a	b		d			
9	NO.9	0.8742	0.9350	3	目的変数	a		c	d			
10	NO.10	0.0632	0.2515	16	目的変数		b	c	d			
11	NO.11	0.7814	0.8840	10	目的変数	a	b			e	○	
12	NO.12	0.8659	0.9306	6	目的変数	a			d	e	◎	
13	NO.13	0.6448	0.8030	12	目的変数		b	c		e		
14	NO.14	0.7921	0.8900	9	目的変数	a		c		e		
15	NO.15	0.4115	0.6415	15	目的変数			c	d	e		
16	NO.16	0.5879	0.7668	14	目的変数		b		d	e		

				x	1	2	3	4	5
no	商圈値	名称	住所	年間入館者数 (人)	延床面積 (㎡)	人口総数	人口(20～24 歳)男比	人口(55～59 歳)女比	昼間人口比 (総数)
1	20km	市立函館博物館	北海道函館市青柳町17-1	10,579	2,502	341,318	2.08	4.17	99.75
2	20km	旭川市博物館	北海道旭川市神楽3条7丁目	25,809	4,070	385,227	1.82	4.14	104.46
3	20km	八戸市博物館	青森県八戸市大字根城字東構35-1	18,174	3,767	333,452	2.02	4.05	105.51
4	20km	水戸市立博物館	茨城県水戸市大町3丁目3-20	24,566	1,923	752,459	2.23	3.52	98.38
5	20km	大磯町郷土資料館	神奈川県中郡大磯町西小磯460	25,349	1,773	1,939,074	2.97	3.28	120.44
6	20km	平塚市博物館	神奈川県平塚市浅間町12-41	72,310	3,927	2,989,804	2.82	3.21	134.47
7	20km	相模原市立博物館	神奈川県相模原市中央区高根3丁目1-15	138,619	9,510	6,496,402	3.25	2.99	144.79
8	20km	上越市立総合博物館	新潟県上越市本城町7-7	42,758	2,463	224,094	1.93	3.66	101.11
9	20km	豊田市郷土資料館	愛知県豊田市陣中町1丁目2-1-2	17,306	1,261	2,361,446	3.12	2.93	114.94
10	20km	吹田市立博物館	大阪府吹田市岸部北4丁目10-1	33,712	3,298	7,790,147	2.63	3.14	93.34
11	20km	西宮市立郷土資料館	兵庫県西宮市川添町15-26	30,389	1,143	5,101,590	2.66	3.13	71.73

(イ)採用した重回帰式

重回帰式No.12 ■20km圏 11サンプル

	延床面積 (㎡)	人口(55～59歳)女比	昼間人口比(総数)	年間入館者数 (人)
合 計	35637	38.24159406	1188.919559	439571
平 均	3239.73	3.48	108.08	39961.00
標準偏差	2217.77	0.44	19.10	34928.99
件 数	11			

相関行列	延床面積 (㎡)	人口(55～59歳)女比	昼間人口比(総数)	年間入館者数 (人)
延床面積 (㎡)	1.0000			
人口(55～59歳)女比	-0.0932	1.0000		
昼間人口比(総数)	0.6694	-0.2673	1.0000	
年間入館者数 (人)	0.8724	-0.4587	0.6896	1.0000

※3つの説明変数のうち2つはF値が0.5以上で有意である。

※偏相関係数と単相関係数の符号が一致しており、
マルチコリニアリティは発生していない。

重回帰式 ※予測式

変数名	偏回帰係数	標準偏回帰係数	F 値	T 値	P 値	判 定	標準誤差	偏相関	単相関	下限値	上限値
延床面積 (㎡)	12.62471114	0.8016	26.0734	5.1062	0.0014	**	2.472422895	0.8879	0.8724	6.778360033	18.47106226
人口(55～59歳)女比	-29141.01797	-0.3694	9.3171	3.0524	0.0185	*	9546.952962	-0.7556	-0.4587	-51715.97437	-6566.061565
昼間人口比(総数)	99.23861437	0.0543	0.1120	0.3346	0.7477		296.5783015	0.1255	0.6896	-602.0576266	800.5348554
定数項	89643.31256		3.3618	1.8335	0.1094		48891.25522			-25966.1347	205252.7598

精度

決定係数	0.9064
修正済決定係数	0.8659
重相関係数	0.9519
修正済重相関係数	0.9306
ダーゼンワット比	2.2158
赤池のA I C	243.3338

※0.8以上で高精度

分散分析表

要 因	偏差平方和	自 由 度	平均平方	F 値	P 値	判 定
回帰変動	12160850360	3	4053616787	22.52858994	0.0006	**
誤差変動	1259524790	7	179932112.8			
全体変動	13420375150	10				

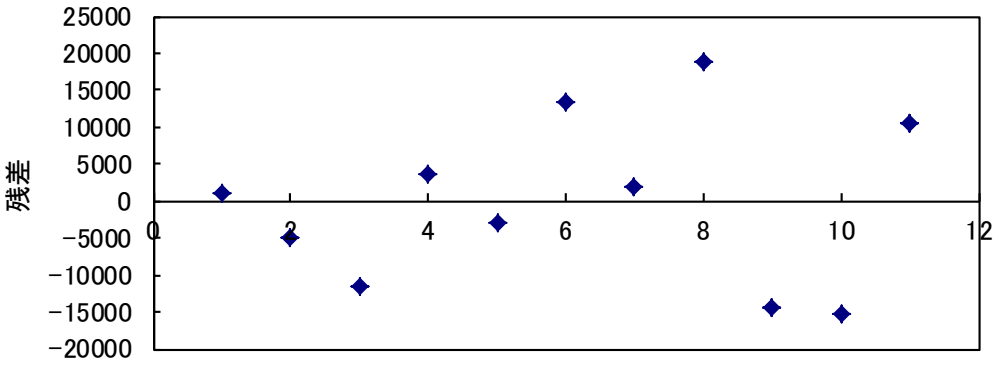
** : 1%有意 * : 5%有意

※残差は1036人～18722人

理論値

データNo.	観測値	理論値	残差	下限値	上限値
1	10579	9542.96287	1036.03713	-8415.044039	27500.96978
2	25809	30834.72669	-5025.726687	12887.68739	48781.76599
3	18174	29587.0304	-11413.0304	13524.77928	45649.28152
4	24566	21032.00666	3533.993337	9818.885887	32245.12744
5	25349	28362.69644	-3013.696437	10222.38349	46503.00939
6	72310	58917.71007	13392.28993	40746.20874	77089.2114
7	138619	136828.5539	1790.446102	107009.5057	166647.6021
8	42758	24035.95726	18722.04274	13218.33117	34853.58334
9	17306	31597.05263	-14291.05263	11384.84936	51809.25591
10	33712	48978.51088	-15266.51088	31542.7042	66414.31756
11	30389	19853.81139	10535.18861	-5005.71923	44713.342

残差グラフ



重回帰分析（目的変数「B. 年間入館者数÷延床面積」）

(7) 一覧

					1	2	3	4	5		
					目的変数	説 明 変 数					
No.	修正済決定係数	修正済重相関係数	決定係数順位	年間入館者数 ÷延床面積	延床面積 (㎡)	人口(20～24 歳)女比	人口(55～59 歳)女比	世帯数比(共 同住宅1・2階)	世帯数比(共 同住宅11～ 14階)	マルチコ	
1	NO.1	0.7948	0.8915	4	目的変数	a	b	c	d	e	
2	NO.2	0.5642	0.7512	13	目的変数	a	b	c	d		
3	NO.3	0.8070	0.8983	3	目的変数	a	b	c		e	
4	NO.4	0.5008	0.7077	14	目的変数	a	b		d	e	
5	NO.5	0.6175	0.7858	9	目的変数	a		c	d	e	◎
6	NO.6	0.8326	0.9125	2	目的変数		b	c	d	e	
7	NO.7	0.4286	0.6547	15	目的変数	a	b	c			
8	NO.8	0.5644	0.7513	12	目的変数	a	b		d		
9	NO.9	0.6332	0.7957	8	目的変数	a		c	d		
10	NO.10	0.6367	0.7979	7	目的変数		b	c	d		
11	NO.11	0.4135	0.6430	16	目的変数	a	b			e	○
12	NO.12	0.5726	0.7567	11	目的変数	a			d	e	
13	NO.13	0.8391	0.9160	1	目的変数		b	c		e	
14	NO.14	0.6378	0.7986	6	目的変数	a		c		e	○
15	NO.15	0.6790	0.8240	5	目的変数			c	d	e	○
16	NO.16	0.5819	0.7629	10	目的変数		b		d	e	○

				x	1	2	3	4	5
no	商圈値	名称	住所	年間入館者数 ÷延床面積	延床面積 (㎡)	人口(20～24 歳)女比	人口(55～59 歳)女比	世帯数比(共 同住宅1・2階)	世帯数比(共 同住宅11～ 14階)
1	20km	市立函館博物館	北海道函館市青柳町17-1	4	2,502	2	4.17	18.89	0.83
2	20km	旭川市博物館	北海道旭川市神楽3条7丁目	6	4,070	2	4.14	21.75	1.19
3	20km	八戸市博物館	青森県八戸市大字根城字東構35-1	5	3,767	2	4.05	15.64	0.24
4	20km	水戸市立博物館	茨城県水戸市大町3丁目3-20	13	1,923	2	3.52	14.85	0.72
5	20km	大磯町郷土資料館	神奈川県中郡大磯町西小磯460	14	1,773	2	3.28	16.02	2.91
6	20km	平塚市博物館	神奈川県平塚市浅間町12-41	18	3,927	2	3.21	16.07	3.07
7	20km	相模原市立博物館	神奈川県相模原市中央区高根3丁目1-15	15	9,510	3	2.99	15.69	4.36
8	20km	上越市立総合博物館	新潟県上越市本城町7-7	17	2,463	2	3.66	13.26	0.34
9	20km	豊田市郷土資料館	愛知県豊田市陣中町1丁目2-1-2	14	1,261	3	2.93	11.95	3.43
11	20km	西宮市立郷土資料館	兵庫県西宮市川添町1-5-26	27	1,143	3	3.13	5.41	12.59

(イ) 採用した重回帰式

重回帰式No.5 ■20km圏 10サンプル

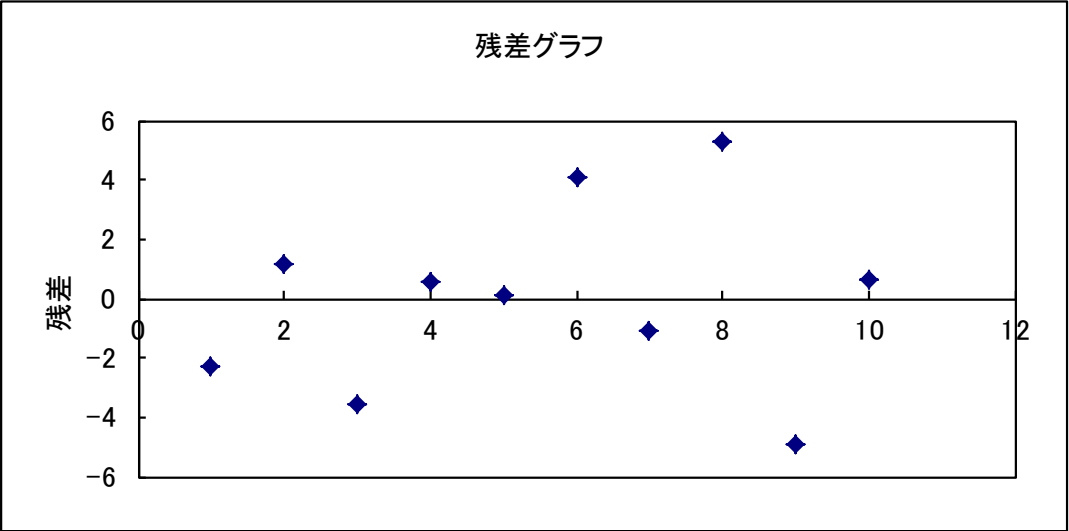
	延床面積 (㎡)	人口(55～59歳) 女比	世帯数比(共同 住宅1・2階)	世帯数比(共同 住宅11～14階)	年間入館者数÷ 延床面積
合 計	32339	35.09948391	149.5278534	29.66754461	133.1269789
平 均	3233.90	3.51	14.95	2.97	13.31
標準偏差	2325.94	0.45	4.10	3.49	6.52
件 数	10				

相関行列	延床面積 (㎡)	人口(55～59歳) 女比	世帯数比(共同 住宅1・2階)	世帯数比(共同 住宅11～14階)	年間入館者数÷ 延床面積
延床面積 (㎡)	1.0000				
人口(55～59歳)女比	-0.0940	1.0000			
世帯数比(共同住宅1・2階)	0.3598	0.6143	1.0000		
世帯数比(共同住宅11～14階)	-0.1049	-0.5752	-0.7674	1.0000	
年間入館者数÷延床面積	-0.1627	-0.7482	-0.8086	0.7721	1.0000

変数名	偏回帰係数	標準偏回帰係数	F 値	T 値	P 値	判 定	標準誤差	偏相関	単相関	下限値	上限値
延床面積 (㎡)	-0.000132849	-0.0474	0.0357	0.1890	0.8575		0.000702907	-0.0842	-0.1627	-0.001939729	0.00167403
人口(55～59歳)女比	-5.47942971	-0.3791	1.7049	1.3057	0.2485		4.196502396	-0.5043	-0.7482	-16.26688249	5.308023067
世帯数比(共同住宅1・2階)	-0.530924455	-0.3340	0.6812	0.8253	0.4468		0.643273421	-0.3463	-0.8086	-2.184511418	1.122662507
世帯数比(共同住宅11～14階)	0.546729748	0.2928	0.7543	0.8685	0.4248		0.629523183	0.3620	0.7721	-1.071511103	2.164970599
定数項	39.29162288		7.1205	2.6684	0.0444	*	14.72464724			1.440712347	77.14253342

精度		分散分析表		**:1%有意 *:5%有意			
決定係数	0.7875	要 因	偏差平方和	自 由 度	平均平方	F 値	P 値
修正済決定係数	0.6175	回帰変動	334.5397935	4	83.63494839	4.632457004	0.0618
重相関係数	0.8874	誤差変動	90.27061484	5	18.05412297		
修正済重相関係数	0.7858	全体変動	424.8104084	9			
ターベントソソ比	2.9870						
赤池のA I C	60.3810						

データNo.	観測値	理論値	残差	下限値	上限値
1	4.228217426	6.519710787	-2.291493361	0.078408504	12.96101307
2	6.341277641	5.188250255	1.153027387	-3.156110916	13.53261143
3	4.824528803	8.413275725	-3.588746922	0.976453442	15.85009801
4	12.77483099	12.24021174	0.534619249	7.044968221	17.43545527
5	14.29723632	14.15875654	0.13847978	7.669545772	20.64796731
6	18.41354724	14.30903364	4.1045136	9.094927168	19.52314011
7	14.57613039	15.67792667	-1.101796278	5.21326593	26.1425874
8	17.36012992	12.04255858	5.317571343	4.818697537	19.26641962
9	13.72402855	18.60196931	-4.877940762	11.25857068	25.94536794
10	26.58705162	25.97529676	0.611754856	15.10482122	36.8457723



キ 新資料館の入館者数予測値

新資料館の予測式で目的変数が「A. 年間入館者数」は P. 11【※予測式 偏回帰係数】に、
目的変数が「B. 年間入館者数÷延床面積」は P. 13【※予測式 偏回帰係数】に導かれました。
この式に、新資料館の想定される延床面積 1,700 m²、及び P. 4 の茅ヶ崎市の各数値を代入
して、年間入館者数を計算します。

※茅ヶ崎の人口(55～59歳)女比 3.18 は、人口(55～59歳)女÷総人口×100 で算出しています。
重回帰式は他も同様に、人口(55～59歳)女÷総人口×100 で算出した係数が説明変数になっ
ていますので、同様のプロセスで算出した 3.18 を採用してます。

(㍿) 目的変数「A. 年間入館者数」

年間入館者数

=

(1,700 m² × 12.6247114)

【延床面積 (新資料館×偏回帰係数)】

+ (3.18 × -29141.01797)

【人口(55～59歳)女比 (茅ヶ崎×偏回帰係数)】

+ (148.53 × 99.23861437)

【昼間人口比 (茅ヶ崎×偏回帰係数)】

+ 89643.31256

【定数項】

= 33,177 人

(㍿) 目的変数「B. 年間入館者数÷延床面積」

1 m²当り年間入館者数

=

(1,700 m² × -0.000132849)

【延床面積 (新資料館×偏回帰係数)】

+ (3.18 × -5.47942971)

【人口(55～59歳)女比 (茅ヶ崎×偏回帰係数)】

+ (14.98 × -0.530924455)

【世帯数比(共同住宅 1・2 階) (茅ヶ崎×偏回帰係数)】

+ (4.0 × 0.546729748)

【世帯数比(共同住宅 11～14 階) (茅ヶ崎×偏回帰係数)】

+ 39.29162288

【定数項】

= 15.8748 人

年間入館者数

=

1,700 m² × 15.8748 人

【新資料館延床面積×1 m²当り年間入館者数】

= 26,987 人

14

(3) 他事例の概要

館 名	年間 入館者数 (人)	延床面積 (㎡)	展示面積 (㎡)	収蔵面積	駐車台数	職 員	都道府県 人口 (万人)	エリア 人口 (万人)	開館後 経過 年数
市立函館博物館	10,579	2,502	1,176	・事務室・収蔵庫など 11.75 ㎡ ※平成 25 年度指定管理者業務 実績シート	・専用駐車場無し ※函館公園利用者用駐車 スペースとして土木部用地 を開放	《H25 年度》 ・館長 1 ・管理担当 5（主査 1、臨時 1） ・学芸担当 6（主査 2、嘱託 1） ※学芸内訳 自然・博物館史 1、美術・歴史 1、考古 1、歴史・民俗 1、民族・民俗 1、嘱託 1	547	28	133
旭川市博物館	25,809	4,070	1,882	・第 1 収蔵庫 433.0 ㎡ （木製品、金属製品など） ・第 2 収蔵庫 249.6 ㎡ （土器、石器、岩石・鉱物、剥製、 昆虫、植物標本） ・第 3 収蔵庫 156.0 ㎡ （美術品、漆製品、皮革、繊維製品） ・荷解室 107.0 ㎡ 計 945.6 ㎡	・専用駐車場無し ※隣接する旭川大雪アリーナ裏側 に約 400 台収容可能な無料駐 車場。大型バスも 10 台駐車可 能。	《H25 年度》 ・計 33 名（博物館常駐職員 8 名、科学館常駐職員 25 名） ・館長 1 ・主幹 1（博物館施設管理・事業統括・考古） ・副館長 1（科学館施設設備管理担当） ・主査 5（電子工作、地学（地質）、プラネタリウム・生物、近現代史、 科学館常設展・運営管理） ・主任 7（プラネタリウム、近現代史、民族、天文、電子工作、理科実験、庶務） ・係員 2（理科実験、地学、庶務） ・嘱託職員 13（考古・民族、レファレンスルーム運営管理、理科実験指導、 パソコン教室、木工模型工作指導、天文観測指導、プラネタリウム解説、団体受付） ・臨時職員 3（事務補助・団体観覧受付）	547	35	19
八戸市博物館	18,174	3,767	865		・一般 24 台 ・大型バス 5 台 ・身障者用及び搬入用 5 台	教育委員会	138	24	29
水戸市立博物館	24,566	1,923	790		・約 20 台 （水戸市立中央図書館と兼用）	教育委員会	296	27	34
大磯町郷土博物館	25,349	1,773	360	・特別収蔵庫 39.87 ㎡ ・収蔵庫 1 58.94 ㎡ ・収蔵庫 2 164.32 ㎡ ・収蔵庫 3 188.56 ㎡ ・荷解室 78.09 ㎡ 計 529.78 ㎡	・第 1 駐車場：36 台 ・第 2 駐車場：19 台 ※県立大磯城山公園	・館長 1（生涯学習課長・生涯学習館長兼務） ・職員 5（常勤）（内、学芸員 2／民俗、自然）	892	3	24
平塚市博物館	72,310	3,927	1,402	・管理倉庫（2 室） 45 ㎡ ・第 1 収蔵室 84 ㎡ ・第 2 収蔵室 99 ㎡ ・第 3 収蔵室 63 ㎡ ・第 4 収蔵室 97 ㎡ ・第 5 収蔵室 34 ㎡	・75 台	・館長 1（天文担当学芸員兼務） ・学芸員 7（常勤）（考古、民俗、歴史、地質、天文、生物、天文） ・市史編纂担当 2（常勤） ・事務 3（常勤）	892	26	36
相模原市立博物館	138,619	9,510	1,784	・収蔵庫 76.33 ㎡ ・館外収蔵庫 618.00 ㎡ 計 694,33 ㎡ ※H25 年報では ・収蔵スペース 1,570 ㎡	・95 台（障害者用 4 台分含む） ・大型バス 4 台可	・館長 1 ・企画情報班 6 ・学芸班 10 （天文、歴史、民俗、考古、生物、地質） ・市史編さん班 6	892	70	17
上越市立総合博物館	42,758	2,463	826		・530 台 （同施設が位置する高田公園に隣 接する駐車場 8 箇所の合計台数） ※高田公園リーフレットより	教育委員会	239	21	38
豊田市郷土資料館	17,306	1,261	300	・収蔵庫 88 ㎡ ※リーフレットより	・約 20 台	教育委員会	726	41	45
吹田市立博物館	33,712	3,298	782	・一般収蔵庫 ・特別収蔵庫 ※HP より	・44 台	・館長 1 ・副館長 1（学芸員・民俗） ・学芸員 4（考古・歴史 2・美術工芸） ・博物館スタッフ（学校連携） 1	868	35	20
西宮市立郷土資料館	30,389	1,143	304	・第 1 収蔵庫 54.2 ㎡ ・第 2 収蔵庫 43.51 ㎡ ・第 3 収蔵庫 251.47 ㎡ ・第 4 収蔵庫 151.74 ㎡ 計 500.92 ㎡	・15 台 （西宮市大谷記念美術館前）	・12 名（郷土資料館・和紙学習館共通） ・館長 1（市教育委員会文化財課長兼務） ・課長補佐・学芸員 1 ・学芸員 6（内 嘱託 4 名） ・庶務・管理業務員 4（内 嘱託 3 名）	557	47	27
明石市立文化博物館	92,184	5,039	778	※収蔵庫 3 室 ※明石市公共施設白書より	・32 台	・19 名（指定管理者） （神戸新聞事業社・神戸新聞地域創造・NHKプラネット共同事業体） ・正社員 5 ・正社員以外 14（契約社員 8、委託業務従事者 6）	557	29	21

4 建設事業費の概算

地盤改良費		56,000,000
施設整備費	建築本体工事費	617,000,000
	展示製作費	374,000,000
	外構整備費	97,000,000
設計・監理費 ＊設計費は平成28年執行	建築工事監理費	109,000,000
小計		1,253,000,000
消費税(10%)		125,300,000
建設費合計		1,378,300,000

5 アドバイザー会議、市民ワークショップの開催経過

第1回 アドバイザー会議	
議 題	<u>1 委嘱式</u> <u>2 議題</u> ①会長・副会長選出 ②基本計画策定の経緯について ③アドバイザー会議の所掌事項 ④基本計画の検討事項
日 時	平成26年8月29日(金) 15時～17時
場 所	茅ヶ崎市役所 本庁舎7階大会議室B
出席者	(アドバイザー委員) 相澤正彦委員／江水是仁委員／大島光春委員／佐川和裕委員／田尾誠敏委員／丹治雄一委員 (欠席) 大原一興委員／中林由美子委員 (事務局・社会教育課) 神原聡教育長／金子陽一教育推進部長／飯田直土社会教育課長／ 石井亨史跡・文化資料館整備担当課長／落合高広課長補佐／須藤格主査／千色出主事 (事務局・丹青社) 高橋久弥／幸雅之／大山由美子／浪本晴美

第2回 アドバイザー会議	
議 題	<u>1 茅ヶ崎市文化資料館整備基本計画 基本的な考え方の整理</u> ①新資料館の基本理念・目的・テーマについて ②新資料館の活動について ③新資料館の整備方針について <u>2 今後の計画策定について</u>
日 時	平成26年10月24日(金) 15時～17時
場 所	茅ヶ崎市役所分庁舎5階 特別会議室
出席者	(アドバイザー委員) 相澤正彦委員／江水是仁委員／大島光春委員／佐川和裕委員／ 田尾誠敏委員／丹治雄一委員／大原一興委員／中林由美子委員 (事務局・社会教育課) 飯田直土社会教育課長／石井亨史跡・文化資料館整備担当課長／ 落合高広課長補佐／須藤格主査 (事務局・丹青社) 高橋久弥／幸雅之／大山裕／一ノ瀬裕行／浪本晴美

第3回 アドバイザー会議	
議 題	<u>1 茅ヶ崎市文化資料館整備基本計画 基本的な考え方の整理</u> (1)基本理念、新資料館のテーマの確認 (2)新資料館の活動について (3)市民・利用者と協力して進める活動、多様な主体との連携について (4)施設整備について <u>2 今後の予定について</u>
日 時	平成26年12月26日(金) 9時～12時
場 所	茅ヶ崎市役所分庁舎5階 特別会議室
出席者	(アドバイザー委員) 相澤正彦委員／江水是仁委員／佐川和裕委員／ 田尾誠敏委員／丹治雄一委員／大原一興委員／中林由美子委員 (事務局・社会教育課) 飯田直土社会教育課長／石井亨史跡・文化資料館整備担当課長／ 落合高広課長補佐／須藤格主査 (教育施設課) 三井伸二主査／萩原曜子氏 (事務局・丹青社) 大山由美子／大山裕／浪本晴美

第4回 アドバイザー会議	
議 題	<u>1 茅ヶ崎市文化資料館整備基本計画事務局案に対する意見聴取</u> <u>2 その他</u>
日 時	平成27年2月9日(月) 9時～12時
場 所	茅ヶ崎市役所分庁舎5階 特別会議室
出席者	(アドバイザー委員) 相澤正彦委員／江水是仁委員／大島光春委員／佐川和裕委員／ 田尾誠敏委員／丹治雄一委員／大原一興委員／中林由美子委員 (事務局・社会教育課) 飯田直土社会教育課長／石井亨史跡・文化資料館整備担当課長／須藤格主査 (教育施設課) 萩原曜子氏 (事務局・丹青社) 大山由美子／大山裕／一ノ瀬裕行

第5回 アドバイザー会議	
議 題	<u>1 茅ヶ崎市文化資料館整備基本計画事務局案について</u> <u>2 重点課題について</u> <u>3 その他</u>
日 時	平成27年3月10日(月) 9時～12時
場 所	茅ヶ崎市役所分庁舎5階 特別会議室
出席者	(アドバイザー委員) 相澤正彦委員／江水是仁委員／大島光春委員／佐川和裕委員／ 田尾誠敏委員／丹治雄一委員／中林由美子委員 (事務局・社会教育課) 石井亨史跡・文化資料館整備担当課長／須藤格主査 (教育施設課) 萩原曜子氏 (事務局・丹青社) 大山由美子／大山裕／一ノ瀬裕行／森川佳喜／榎木洋

第6回 アドバイザー会議	
議 題	<u>議題1 茅ヶ崎市文化資料館整備基本計画事務局(案)について</u> <u>議題2 その他</u>
日 時	平成27年7月9日(木) 9時～12時
場 所	茅ヶ崎市役所分庁舎5階 特別会議室
出席者	(アドバイザー委員) 相澤正彦委員／江水是仁委員／大島光春委員／佐川和裕委員／ 田尾誠敏委員／丹治雄一委員／大原一興委員／三瓶信哉委員 (事務局・社会教育課) 遊作克己教育推進部長／飯田直土社会教育課長／ 石井亨史跡・文化資料館整備担当課長／須藤格主査 (事務局・丹青社) 高橋久弥／大山裕／一ノ瀬裕行／榎木洋

第1回ワークショップ	
議 題	<u>1 基本事項、ワークショップの進め方の説明（事務局）</u> <u>2 講話「登録博物館とは」（田尾誠敏委員）</u> <u>3 ワークショップ 第1部</u> 班別討議：「文化資料館で伝えたいこと。茅ヶ崎の宝」 <u>4 講話「大磯の博物館活動」（佐川和裕委員）</u> <u>5 ワークショップ 第2部</u> 班別討議：「文化資料館でやりたいこと」 <u>6 ワークショップ 発表（各班代表）</u> <u>7 講評（地元の方々、アドバイザー）</u>
日 時	平成26年9月13日（土）10時～12時30分
場 所	茅ヶ崎市民俗資料館旧和田家
出席者	一般市民：19名 地域住民：2名 地 権 者：4名 自 治 会：2名 （アドバイザー委員）相澤正彦委員／大島光春委員／佐川和裕委員／ 田尾誠敏委員／丹治雄一委員 （事務局・社会教育課）飯田直土社会教育課長／石井亨史跡・文化資料館整備担当課長／ 落合高広課長補佐／須藤格主査／千色出主事 （事務局・丹青社）大山由美子／大山裕／一ノ瀬裕行／浪本晴美／幸雅文

見 学 会	
議 題	<u>1 大磯町郷土資料館の概要（大磯町郷土資料館：國見徹館長）</u> <u>2 大磯町郷土資料館見学</u> <u>3 質疑応答</u>
日 時	平成26年10月8日（水）13時～16時
場 所	大磯町郷土資料館
出席者	大磯町教育委員会：教育部生涯学習課長 佐川和裕氏 大磯町教育委員会：大磯町郷土資料館館長 國見徹氏 市民：約30名 （アドバイザー委員）中林由美子委員 （事務局・社会教育課）石井亨史跡・文化資料館整備担当課長／落合高広課長補佐／ 須藤格主査／千色出主事 （事務局・丹青社）大山由美子／大山裕／一ノ瀬裕行／浪本晴美

第2回ワークショップ	
議 題	◆ 相模原市立博物館、施設の紹介（相模原市立博物館：河尻学芸員） ◆ 市民ワークショップ <u>1 新資料館整備基本計画・経過報告（事務局）</u> <u>2 「博物館活動と市民活動」（江水是仁委員）</u> <u>3 「企画展の作り方」（相模原市立博物館：河尻学芸員）</u> <u>4 ワークショップ</u> ①班別討議：「やりたいことに必要なもの」 ②発表（各班代表） <u>5 講評（アドバイザー委員）</u>
日 時	平成26年11月27日（水）10時～15時30分
場 所	相模原市立博物館

出席者	相模原市立博物館：地質担当学芸員 河尻氏 市民：12名 （アドバイザー委員）田尾誠敏委員／江水是仁委員 （事務局・社会教育課）石井亨史跡・文化資料館整備担当課長／落合高広課長補佐／須藤格主査／芦葉氏 （事務局・丹青社）大山由美子／大山裕／一ノ瀬裕行／浪本晴美
-----	---

第3回ワークショップ	
議 題	<u>1 経過報告、ワークショップの趣旨説明（事務局）</u> ①経過報告 ②ワークショップの趣旨説明 ③施設配置検討資料について ④参考事例の紹介 <u>2 フリーディスカッション「施設を考える」</u> ①展示・収蔵棟 ②体験・交流棟 ③屋外空間 ④全体の見地から
日 時	平成27年1月31日（土）13時～15時30分
場 所	茅ヶ崎市文化資料館 2階講義室
出席者	市民：17名 地域住民：4名 （アドバイザー委員）大原一興委員／丹治雄一委員／江水是仁委員 （事務局・社会教育課）石井亨史跡・文化資料館整備担当課長／須藤格主査 （事務局・丹青社）大山由美子／大山裕／一ノ瀬裕行／浪本晴美

平成26年度 茅ヶ崎市文化資料館整備基本計画中間報告	
議 題	<u>1 講演「私がもし1日館長さんだったら？」（講師：相澤正彦委員）</u> <u>2 新資料館整備基本計画の検討状況（報告：社会教育課 須藤格主査）</u> <u>3 みんなで話し合い（進行：江水是仁委員）</u>
日 時	平成27年3月22日（月）13時～16時
場 所	茅ヶ崎市立図書館 第一会議室
出席者	一般市民：29名 （アドバイザー委員） 相澤正彦委員／江水是仁委員／大島光春委員／佐川和裕委員 （事務局・社会教育課）飯田直土社会教育課長／石井亨史跡・文化資料館整備担当課長／ 落合高広課長補佐／須藤格主査／千色出主事 （事務局・丹青社）大山由美子／大山裕／一ノ瀬裕行／榎木洋

平成 26 年度 第 1 回茅ヶ崎市文化財保護審議会	
議 題	文化資料館移転整備について（報告）
日 時	平成 26 年 7 月 2 日（水曜日）
出席者	（文化財保護審議会委員） 近藤英夫委員（東海大学文学部教授）／相澤正彦委員（成城大学文学部教授）／ 五味文彦委員（放送大学教授）／小室明彦委員（学識経験者）／ 岡崎孝夫委員（学識経験者） （事務局・社会教育課）金子陽一教育推進部長／飯田直土社会教育課長／石井亨史跡・整備担当課長／ 大村浩司課長補佐／落合高弘課長補佐／須藤格主査／高橋知副主査／千色出主事／加藤大二郎主事

平成 26 年度 第 2 回茅ヶ崎市文化財保護審議会	
議 題	文化資料館移転整備について（報告）
日 時	平成 26 年 9 月 22 日（月曜日）
出席者	（文化財保護審議会委員） 近藤英夫委員（東海大学文学部教授）／相澤正彦委員（成城大学文学部教授）／ 五味文彦委員（放送大学教授）／小室明彦委員（学識経験者）／ 岡崎孝夫委員（学識経験者） （事務局・社会教育課）金子陽一教育推進部長／飯田直土社会教育課長／石井亨史跡・整備担当課長／ 大村浩司課長補佐／落合高弘課長補佐／須藤格主査／高橋知副主査／千色出主事／加藤大二郎主事

平成 26 年度 第 3 回茅ヶ崎市文化財保護審議会	
議 題	文化資料館移転整備について（報告）
日 時	平成 27 年 1 月 9 日（金曜日）
出席者	（文化財保護審議会委員） 近藤英夫委員（東海大学文学部教授）／相澤正彦委員（成城大学文学部教授）／ 五味文彦委員（放送大学教授）／小室明彦委員（学識経験者）／ 岡崎孝夫委員（学識経験者） （事務局・社会教育課）金子陽一教育推進部長／飯田直土社会教育課長／石井亨史跡・整備担当課長／ 大村浩司課長補佐／落合高弘課長補佐／須藤格主査／高橋知副主査／千色出主事／加藤大二郎主事

平成 26 年度 第 4 回茅ヶ崎市文化財保護審議会	
議 題	文化資料館移転整備について（報告）
日 時	平成 27 年 3 月 24 日（火曜日）
出席者	（文化財保護審議会委員） 近藤英夫委員（東海大学文学部教授）／相澤正彦委員（成城大学文学部教授）／ 五味文彦委員（放送大学教授）／小室明彦委員（学識経験者）／ 岡崎孝夫委員（学識経験者） （事務局・社会教育課）金子陽一教育推進部長／飯田直土社会教育課長／石井亨史跡・整備担当課長／ 大村浩司課長補佐／落合高弘課長補佐／須藤格主査／高橋知副主査／千色出主事／加藤大二郎主事

平成 27 年度 第 1 回茅ヶ崎市文化財保護審議会	
議 題	新資料館整備基本計画の諮問
日 時	平成 27 年 7 月 27 日（月曜日）
出席者	（文化財保護審議会委員） 近藤英夫委員（東海大学文学部教授）／相澤正彦委員（成城大学文学部教授）／ 五味文彦委員（放送大学教授）／小室明彦委員（学識経験者）／ 岡崎孝夫委員（学識経験者） （事務局・社会教育課）遊作克己教育推進部長／飯田直土社会教育課長／石井亨史跡・整備担当課長／ 落合高弘課長補佐／白沢礼子課長補佐／須藤格主査／高橋知副主査／大村浩司主任／加藤大二郎主事

平成 27 年度 第 2 回茅ヶ崎市文化財保護審議会	
議 題	新資料館整備基本計画の答申
日 時	平成 27 年 8 月 17 日（月曜日）
出席者	（文化財保護審議会委員） 近藤英夫委員（東海大学文学部教授）／相澤正彦委員（成城大学文学部教授）／ 五味文彦委員（放送大学教授）／小室明彦委員（学識経験者）／ 岡崎孝夫委員（学識経験者） （事務局・社会教育課）遊作克己教育推進部長／飯田直土社会教育課長／石井亨史跡・整備担当課長／ 落合高弘課長補佐／白沢礼子課長補佐／須藤格主査／高橋知副主査／大村浩司主任／加藤大二郎主事

7 基本計画への意見集約資料

	事務局・庁内検討	アドバイザー会議	ワークショップ・中間報告会
はじめに		《名称について》 ・館の名称は重要な課題。基本計画では（仮称）を入れてはどうか。 ・「新博物館」としてもよいのではないか。 《ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業（以下、丸博）について》 ・「新資料館整備の方向」で、下寺尾遺跡群の活用と並べて、丸博事業との連携を紹介してはどうか。教育、普及、調査の面でも更に連携する部分が多くなると思う。 ・「丸博事業との連携により、より茅ヶ崎市全体を考えていきます。」、という記述を入れたらどうか。	
1 新資料館をとりまく現状と課題	《自然分野の取り扱いについて》 ・新資料館は、数少ない自然が残された場に立地することを踏まえて、土地の利用現況図を掲載している。	《自然分野の取り扱いについて》 ・茅ヶ崎市の「位置・地勢」にも多様な自然環境の記述があると、その根拠となる。 ・茅ヶ崎市教育基本計画の施策の方向には「自然」という言葉が最初の1ヶ所以外は、全く出てこない。自然分野が軽視されているのではないか。 ・新資料館は単なる建て替えではなく、新たな博物館として舵を切るということを記載してはどうか。そして、土地利用の図には現資料館の位置もプロットし、街中から自然環境の中へあえて設置し、自然も取り入れていくことを示してはどうか。 ・同図には、下寺尾遺跡群も表現するとよい。	
2 基本理念（使命と役割）	《使命・ミッション》 「市民参加による資料館活動の継承と発展」 ・茅ヶ崎の博物館であること。（地域博物館として） ・日常の博物館（いつでも）、見える博物館（活動、施設） ・茅ヶ崎の入口（中核であるとともに起点として） ・継続する博物館（長期的視野）、成長する博物館（市民とともに育つ、市民が育てる、未来志向） ⇒但し、核になる部分は行政が責任をもって、市民の財産となるようしっかりと造り上げる。（使命） ・市民とともに活動し、あるいは創造してきた成果が地域博物館の中に蓄積され、それが更に他の多くの人びとに活用されていくという長期の展望をもつ社会教育機関（使命） ・茅ヶ崎の文化を次世代へ伝える。（使命） ・文化、記憶の収集、保存、継承 ・市民活動を支援（役割） ・情報提供、活動場所の提供、人材育成 ・市民の主体的な活動の場（役割） ・高齢者や地域の人びとの活用	《基本理念について》 ・放課後博物館 ・市民と博物館の壁をより低く。 ・「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館」のコアとして位置付け ・地域博物館だからできること。 ・「うちの博物館」「マイミュージアム」 ・市民がいつも遊びに来る、勉強をしに来る、いろいろな理由で来る。 ・市民が積極的にかかわる今の博物館を継承 ・資料館は「高度な研究機関」であり、専門知識を有する学芸員が資料を探求し、その成果を市民・来館者に還元する場でもある。	《新資料館について》 ・よその人が来てくれる施設をめざしたい。 ・まちづくりの拠点になるとよい。 ・堤下地区の発展に寄与することをのぞむ。観光的な要素もほしい。地元の生活にも配慮して。

	事務局・庁内検討	アドバイザー会議	ワークショップ・中間報告会
3 新資料館の活動	◆地域づくりや地域の課題解決への貢献（役割） ・どこでも通用する知識を有する人間の育成ではなく、生活を自ら切り開くための知識と力を育む。 ・地域の現実や生活の中から必要とする教育課題を発見し、資料を媒介として、目的と計画に基づき、職員も市民も、また市民同士も相互に学習する。 ・特定のテーマを持った学習要求については、関係のある分野の自主的グループを編成していただき、活動をサポートする。（資料整理グループの体系化） ・市民自身の学習課題に基づく自主編成とその成果を博物館の活動に組み込み、蓄積していく。市民自身が教育の主体となり、博物館側がそれを援助していく。 ・市民に責任を負う教育-市民が自分で自分の学習を発展させ相互に高め合っていくという資質の向上と、自己教育の多彩な展開が地域やその社会の発展の基礎となる。 ・専門知識を有する学芸員を配置し、計画的・継続的な調査研究・収集保管活動を行う。	《分野について》 ・「歴史」（史学）を対象とすることを謳う。近世文書を取り扱える人間が必要 ・「生業」や「くらし」、茅ヶ崎で生活する人に密着する博物館、寄り添う博物館という考え方を謳う。 《整備の方向について》 ・「地域遺産」と「都市資源」の関係性について記述する。（都市型エコミュージアムとして、「都市資源」という呼称を使用。）	《活動について》 ・資料館をもっと知ってもらうための活動や発信 ・博物館が役立つことを伝えたい。 ・茅ヶ崎はどういうまちなのか学べる場所として ・子どもたちの教育の場として、イベント・行事、ワークショップ、体験コーナーなどを設置してほしい。学習の場として、常時学芸員が応対し、子どもたちの興味を引き出してほしい。 ・茅ヶ崎のこれからを見据えた何かを発信。耕作放棄地の問題や、いろんな工夫をしながら、頑張っている農業、漁業、畜産、産業など。 ・市民なりのまちづくりのビジョンが持てるような未来志向 ・「高度な専門性を維持し」とはどういうことか。 ・資料館ができることによって、どのように地元で発展、地域づくりに関わるのか。 ・一部の愛好者の方だけの施設になってしまうのか。
	◆人や地域、文化（財）をつなぐネットワークの構築（役割） ◆（前述を実現するために）「〇〇〇の資料館」とその使命（3つ） ・茅ヶ崎の未来を拓く人づくりに貢献する資料館（ひとつの事物・事象から別の価値を発見し、多様性を理解する力を育み、新たなものを作り出していく力を育む） ・茅ヶ崎を知り、学び、伝える資料館（なによりも、モノを正確に見、そして正確に表現しうる技術的能力（観察力）を育む） ・茅ヶ崎の自然、歴史・文化の資料を保管し、継承し、活用する資料館 ◆広さに関わらず、地域のコミュニティに自分から接点を持っていく人間、そして関わりを持とうとする人間を、新資料館の活動に関わる、もしくは触れることにより育てることに資する。	《活動について》 ・長寿社会に向けた、高齢者、茅ヶ崎でくらししてきた「地域の知恵」の保全と継承・活用という視点が必要 ・地域の遺産、資源を伝える資料館 ・世代間交流、学校教育 ・子どもたちの未来を担うということをしっかり明文化。子どもたちがどこに住んでいても、自分の住む地域を、隣とつなげてみる、広げてみるといった視点が、ここで学べるようになっていればよい。 ・茅ヶ崎のものを茅ヶ崎の外にどう発信していくか、「外向き」をどう考えるのか。 ・市民参加による館運営の継承という視点が強調されすぎ。これまで関心を寄せなかった市民へのアピールという点で展示を重視 ・新資料館が生み出す新しい価値が、他の社会教育施設・文化施設をつないでいくようなイメージを謳えればよい。	

	事務局・庁内検討	アドバイザー会議	ワークショップ・中間報告会
3新資料館の活動 (1)新資料館のテーマ	《茅ヶ崎に暮らすことの再認識》 ・D'où venons-nous?我々はどこから来たのか ⇒茅ヶ崎はどんなところか?（自然史） ・Que sommes-nous? 我々は何者か ⇒茅ヶ崎でどうくらししてきたのか?（民俗、文化） ・Où allons-nous?我々はどこへ行くのか ⇒茅ヶ崎でどう暮らすのか?（まちづくり） 《新資料館の（存在の）テーマ》 ・案1「大地と人の物語を紡ぐ」 ・案2「みんなで伝える大地と人の物語」 ・自然環境＝大地 社会環境＝人 ・みんな＝市民参加 ・テーマの文言案（宣言文、よりどころ） 「茅ヶ崎の特性である、川・海・道が交じり合う大地、その中で連続と続いてきた人びとのくらしとその記憶を守り、伝え、生かすことにより、まちの力にしていきます」 《新資料館の（活動の）テーマ》 ・対象を基本とした主題 「海と川と道が交わる実りの大地とくらしの記憶」（展示テーマか?） 茅ヶ崎の特性である、川・海・道が交じり合う大地、その中で連続と続いてきた人びとのくらしとその記憶を守り、伝え、生かすことにより、まちの力にしていきます。 ・目的を基本とした主題 「茅ヶ崎がもつ多様性の力（多様な力）」 ←ミッションや活動テーマで謳えばよいか? ・新たな文化の創造力 …人が集い、共に活動することを通じて学び、新しいものを生み出す力 ・過去を守り、今をつくり、未来を切り拓く力 …尊重し合うことでもたらされる心の豊かさと活力に満ちた地域社会を形成する力 ・多様性を探求する力 …茅ヶ崎の多様な自然、歴史・文化を探求することで茅ヶ崎の魅力を発見・再発見し、愛着と誇り、地域の活力 《学校教育や子供への配慮》 ・学校教育での活用 ・子供連れで来られる施設	《テーマについて》 ・「茅ヶ崎の大地」、「茅ヶ崎に暮らしてきた人びとの営み」 ・祈り、日々の営み、空間軸と時間軸の交差 （気候・地質⇄歴史・民俗） ・生活感のある収蔵品が、子どもたちの学習には価値がある（大磯）使えたら、なおよい。 ・基本テーマ、サブテーマという整理はできないか? ・平博や大磯が地域を特定したテーマ設定で、地域を限定してしまったがゆえに、広域のもの、他地域のものをテーマとすることが難しくなっているなので、柔軟性を持たせたテーマがよい。 ・「茅ヶ崎」を離れることができる視点を持つことはよい。 ・たとえば「地域に根差し、地域から広がる世界を」というような、核から外に出ていくようなイメージを記すとよい。 ・「茅ヶ崎から広がる世界」を基本理念に入れておくというのも大事。活動理念では具体的にする。	《テーマについて》 ・サブテーマで海と川があって水があるんだけど空気がない。大気は大事だと思う。

	事務局・庁内検討	アドバイザー会議	ワークショップ・中間報告会
3 新資料館の活動 (2) 活動の基本方針 (3) 多様な主体との連携	《連携、ネットワーク》 ・多様な主体との連携により、博物館活動の質や量を高め、市民・利用者にとってよりよい活動や社会教育の場を提供 ・茅ヶ崎の資料の保全活動を広げる取組の展開 ・市内の史跡や文化財、自然、教育施設、公共施設などとの連携による教育文化ネットワークの構築 ・他の博物館との連携 ・学校教育 ・大学・研究施設 ・地域の諸団体 ・企業・関連団体 ・社会教育施設（図書館・公民館） ・美術館・開高記念館・ゆかりの人物館 ・地域集会施設 ・自然 ・遺跡・史跡 ・その他文化財（有形無形） ・市外の博物館 ・北部地域の、茅ヶ崎の文化・教育のネットワークのコア施設（機関） ・「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館」のコアとして ・インフォメーションセンターとして（自然、歴史、文化、人） ・時間の博物館として（自然史、歴史） ・他施設との連携（市内、市外） ・データベース ・地域資源 ・人材 ・あくまで核は茅ヶ崎であるが、そこに関係性のあるものについては、範囲を問わず、主体を問わず、探求していく姿勢の記述を検討する。	《連携、ネットワーク》 ・エコミュージアムのコア ・周辺文化資源との関連付け ・野外展示（和田家、三橋家の活用方法） ・「茅ヶ崎ゆかりの人物館」 ・市民ネットワーク ・地域資源一覧（データベース化、約 1,300 件） ・地域の人材の活用（陶芸家⇒土器づくり）	《連携、ネットワーク》 ・たくさんのグループ活動との連携 ・市内の文化財散歩について、各団体の一元化を、資料館が指導して貰いたい。 ・博物館が縦割りの垣根を超えた活動の中心になるとよい。博物館が各活動を結びつけるコーディネート機能を担うとよい。 ・丸博との連携
		《学校との連携》 ・教育指導要領や教科書に沿った形での展示の検討がなされれば、学校教育による利用が促進される。 ・新しい世代の教員が増えている中、培われた教授法の継承が校内での課題。退職した教員の活用 ・学校教育に沿った展示で学校利用は促進されるかもしれないが、それが地域の博物館がなさなくてはならない展示とは限らない。そのため、学校教育との連携は難しく、求めに応じる、寄り添うといったバランスが地域博物館には求められる。 ・チルドレンミュージアム的な役割を担うほうが活動の幅が広がる。 ・教育委員会は新資料館の誕生に期待。小学校 3、4 年生は近隣の施設で体験することになっており、探求のきっかけになる。学校との連携をキーワードとして入れてほしい。 ・学校との連携と、子ども向けプログラム開発との項目を分ければよい。学校の教育プログラムの中に博物館利用を位置付けてほしい。	《学校教育との連携》 ・学校教育との結びつき。子供に茅ヶ崎という場所を知ってもらうこと→長い目でみると必要 ・円蔵中学に話に行ったときに、（現在の）資料館そのものの存在が知られていなかった。小学生、中学生の団体などが、必ず利用するような学校との連携が必要 ・出前講座。学校との連携 ・いろんな財産が、茅ヶ崎の学校教育でうまく活かせていない。博物館ができればもっと組織的に学校教育とのつながりができると期待
		《他施設との連携》 ・美術館は近代から現代美術を扱っているので、自然・歴史の資料館と連携ができれば相乗効果が得られる。 ・多くの博物館が必要なのではなく、今ある博物館施設がどのようにつながり連携するか？そして何をなすかを検討することが必要である。 ・市内に美術館、開高記念館、人物館などがあるから、学芸員をはじめとした運営スタッフの人的資源の活用は検討できないか？ ・天文分野とも連携して、そういうグループの発表の場としての利用を考え、広めに記載しておいたほうがよい。 ・学習交流の中に、市内の生涯学習施設との連携を入れるとよい。	《周辺環境との連携》 ・駒寄川、湿地、谷戸 ・大岡越前祭の墓前法要 ・茅ヶ崎を知ってもらうために、駅付近から資料館までをつなぐ仕掛けが必要 ・ネットワークのコア施設。全体のガイダンスが必要 ・北部丘陵の入口にある下寺尾遺跡群は歩いたらきっと魅力的な場所。資料館を地域の史跡などを巡る際の拠点として整備するとよいのではないか。
		《世代間交流について》 ・高齢者との関わりについて「世代間交流」というキーワードがあると、学習・交流に対する具体性が出てくるのではないか。	

事務局・庁内検討	アドバイザー会議	ワークショップ・中間報告会
	《文書館について》 ・文化生涯学習課が文書のアーカイブを始めているということで少し安心したが、文書の展示や利用は博物館の業務なので、人員配置を考えたほうがよい。 ・文書館としての機能が独立してあれば、連携して利活用しあえるので、必ずしも新資料館で取り込む必要はない。	
《丸博について》 ・別章として整理した。丸博の「事業」と新資料館の持つ資料と施設を連携させて効果的な教育普及を図りたい。	《丸博について》 ・基本計画案の中で、丸博については後のほうに章立てされているが、地域づくりは丸博が中心に担っている部分など、前の部分で丸博が紹介されてもよいのではないか。「茅ヶ崎で進んでいるさまざまな事業」の一つで、紹介してはどうか。多様な主体との連携にも、なんらかの形で入ってくると思われる。 ・基本理念は「新資料館は」という主語である必要がある。前に指針として、丸博との連携を入れるか、別途強調するか。 ・丸博はネットワークなので、多様な主体として表に並ぶ一つではない。丸博について一体となって、ネットワークを組んでいることを記述してはどうか。	
3 新資料館の活動 (4) (仮称) 茅ヶ崎市新資料館市民ボランティアの育成と連携	《市民ボランティアの仕組みづくりについて》 ・かつては講座受講者が一歩進んで博物館活動に参加するボランティアになっていく流れがあった。来館者のニーズも多様化し、市民ボランティア制度の整理が必要となっている。 ・市民ボランティアの中でも意見はさまざまで、分野によっても違う。ボランティアと学芸員の業務の線引きができれば、大きく募集をかけたいが、その線引きが難しい。ボランティアの高齢化もある。新資料館移転を契機に、引継準備、引継作業、新しい館運営の中で、ボランティアの参加について検討していく。	《市民ボランティアの仕組みづくりについて》 ・市民ボランティアの仕組みづくりに何か想定はあるのか。 ・現資料館のボランティアの活動分野（資料整理など）を拡大していくなど、具体的なプランはあるのか。 ・ボランティアは専門分野ごとにつく。ボランティア担当職員がいればよいが、分野ごとに方法、気質も異なるため、ボランティアの仕組みづくりをしていかなければならない。それには、職員の負担もかかる。 ・新たな可能性も広がり、新たな層を開拓できるチャンスだと思う。

	事務局・庁内検討	アドバイザー会議	ワークショップ・中間報告会
3 新資料館の活動 (5) 調査研究活動	《調査研究のテーマ》 「みんなで見つける茅ヶ崎の魅力」 ・茅ヶ崎の成り立ち ・自然（地質、動植物、森） ・まちの形成 （成り立ち、縄文～弥生、古代、中世（懷島）、近世のムラ・道、明治～昭和（戦前）、駅、南湖院、別荘、関東大震災、ベッドタウン化など） ・茅ヶ崎に人びとが暮らした証、記憶 ・文化財 ・知恵 （大地、自然とどのように向き合ってきたか？） ・思い、（庶民の）祈り ・茅ヶ崎のこれから ・活動の礎となるもの ・まちづくり ・各専門分野の研究成果を地域という次元から再構築し、地域に必要な価値を発見していくための調査・研究がなされることが地域博物館に求められる。 ・茅ヶ崎市文化資料館は、市民の活動の支えを基に、資料館活動が成り立ってきた経緯もあり、あえて調査研究と収集保管を並列にすることで、市民が参画しやすい資料館活動としたい。 ・運営協議会を現資料館は持っていないが、新資料館では運営協議会の組織を運営体制の中で整理していく。	《調査研究の対象》 ・市史編さん資料の活用 ・保存科学 ・人物の扱い。（藤間柳庵、山宮藤吉） ・調査研究の対象に、新資料館自身の活動を評価するための研究を盛り込むのもよい。 《調査研究の体制》 ・専門職員の確保、招待学芸員制度、委託研究員 ・研究スペースの確保 ・調査研究のための環境は、活動していくための費用の関係もある。学芸員の確保には、科研費などで研究費の財源を保証されていることが望ましいが、地域博物館では学芸員数が少ないため、いろんなことをやらざるをえない、研究に没頭できないというジレンマがある。館のやろうとしていることを明確にして考える ・理想と現実は違うと思うが、勤務環境のあるべき姿というのは記述していく必要がある。 ・茅ヶ崎市としてどういう評価をしていくかということを、きちんと俯瞰を持って臨んだほうがいい。 ・運営委員会は外部から客観的に意見を聴く、こちらから諮問して意見を聴く、それから地元の市民の声を代弁してくれる方など、多種多様な方々を集めて、客観的な評価を得ることは必要 ・調査研究活動は専門的な有識者でないと、評価できない。 《報告書記述の順序》 ・博物館の第一義は「収集保管」？ ・最初に収集保管をもっていくことが望ましい。 《専門分野の分類について》 ・「自然、歴史・民俗、考古」という分類になっているが、考古も歴史の一分野なので、「自然、歴史・民俗・考古」と自然と人文を分けるか、あるいは「自然、歴史、民俗、考古」とそれぞれ独立させるのがよい。 ・「自然」に対比されるのは「人文」であるから、その二つでまとめてしまえばよい。もし人員配置と関連するなら、歴史、民俗、考古と同様に、「自然」も研究機関として成り立つように細かく分ける必要がある（動物、植物、地学など）。どちらかを選択したほうがよい。 ・新しく建物ができると、条例の中にも対象分野として記載されるので、人事や活動計画に影響してくる。「自然」という言葉で片づけてしまいがちであると痛感する。	《調査研究資料の活用》 ・豊富な民俗資料、蓄積された資料の活用

	事務局・庁内検討	アドバイザー会議	ワークショップ・中間報告会
3 新資料館の活動 (6) 収集保管活動	《収集保存活動のテーマ》 「みんなで守る茅ヶ崎の宝」 ・人びとが茅ヶ崎に暮らした証（文化財、記憶、知恵、思い） ・自然資料 ・民俗資料 ・考古資料 ・記憶遺産（文書、写真、動画、絵画…）	《収集保管の方針》 ・なぜ文化財を守るのか。（市民への問いかけ） ・自分たちの宝を自分たちでどう守っていくのか。	《整理について》 ・いつも「整理」が抜けている。誰が整理してどうしていくのか。「整理」のところで、どのくらい市民が活用されるか。
	《次世代以降に伝えていく仕組み》 ・施設、設備、人員 ・収集計画、収蔵計画	《収集保管の対象》 ・直接資料館に持ち込めないものも資料、情報としてきちんと収集していくべき。（無形文化財も記録をとり、なんらかの形で保存に向けて支援をしていくことが重要） ・地域博物館の対象というのは茅ヶ崎の中にある全ての宝を視野に入れておく。 ・伝統芸能、お祭りなども情報として記録する。 ・埋蔵文化財以外の収集保存すべき資料の種類を示す。（考古、歴史、民俗、自然など） ・公文書永年保存を今後どうするか、資料館との関わりは？新資料館はよい機会であるので、行政で整理してほしい。どこか保管場所をきちんとしないと、将来的に問題であると懸念している。 ・地域の共同体で持っている資料は今後維持できなくなる可能性もあり、寄託も考えてもよいと思う。 ・処分したり壊れてもいい資料があれば、子供たちが実際に手に触れて学べるように、学校に貸出をしてほしい。 ・民俗の場合、普段使っているものが最初に無くなる。それを次の世代に残すことが必要	《文書資料》 ・行政文書資料が失われないよう、文書館を新資料館の中の一部の研究棟でもいいから作ってほしい。
	《歴史的公文書組み》 ・歴史的公文書の保管は、文化生涯学習課が制度化を進める。同課との連携体制を維持		
	《管理・運営》 ・入出力（機器、メディア、） ・管理運営のしやすさ、将来的な拡張、移行 ・レファレンスシステムの構築 ・第三者が活用する事を前提とする。 ・モノとともに正確な記録（情報）がなければならない。 ・市民共有の財産であり、将来にも伝えていくことが条件 ・資料の状態を保ち、利用の安全を図り将来の人びとの学習の機会を保証する。 ・地域資料を中心としているから地域博物館なのではなく、地域の課題に博物館の機能をとおして主体的に答えていくことを基本とする。 ・博物館が地域課題に答えるという意味で、結果として地域資料が多くなっている。 ・くん蒸については日々における IPM、新収蔵資料の CO2 や冷蔵による害虫駆除、定期的な全館くん蒸などの考え方を別途整理する。 ・「館外の有識者により構成される委員会」という形で機能するよう、運営協議会を考える。	《管理・運営》 ・資料目録の整理 ・収蔵計画が必要 ・永続的に保管していく体制づくり ・考古資料も含めて、増えていくことに、どう対処するか？ ・収蔵図書の増加にどう対処するか？ ・寄贈を受ける品の選び方はどうするか？ ・収蔵前に選別して建物内に入れる工夫をしては如何か？ ・茅ヶ崎は、早めに北部の旧家から収集すること ・学芸員に裁量を持たせてもよい。 ・日常的な運用体制の中で整理 ・市史をレファレンスで公開していくという機能	《管理運営》 ・分散している資料の管理 ・収集しているモノに接する、触れられる仕組み ・人員を投入してもキチンとした保存体制にしてほしい。 ・最大限すばらしい空調施設を使って、資料の保存に努めてほしい。 ・考古資料は特に処分せず、調査の時に取捨し、外で保管できるものは外で保管 ・今の資料をどうやって新施設に持ってくるのかが心配 ・民俗資料、学校とのリンクが必要

事務局・庁内検討	アドバイザー会議	ワークショップ・中間報告会
	《資料の評価について》 ・高額資料購入時に評価が必要になる場合など、それに対する見識を持っている方をその都度お願いして来ていただいて、評価するのがいいのではないか。 ・同じ資料を複数集めるところに意味がある。民俗では多数の資料があって初めて一つのことがわかる。 ・現在の価値観で判断して取捨選択してしまうと、非常に危険である。将来、価値が出てくる可能性がある。 ・発掘された金属製品の部品も民俗資料と比べて初めてわかったものもあり、分野の枠を超えている。 ・自然の分野では、昔から集めているからこそ、何年前、100 年前、200 年前のものをDNAで分析することができる。200 年前に集めている人は何もわからなかったが、後から手法が開発されて、その価値が高まるという可能性がある。また、原発事故前後のように、将来何が起こるか予測できないので、定期的に地点を決めたり、区間を決めて集めておく必要がある。私たちがわかる価値だけが価値じゃない、その先にこれを使って証明できる、あるいは研究できる事象が起きる可能性が沢山あることを、過去の経験から知っている。	
《市史編さん資料について》 ・文献資料は、市史編さん担当の文化生涯学習課と連携をして扱っていく。 ・歴史を扱うが、市史編さん担当の業務を統括して博物館で扱うという方向性を出せる状況にはなっていない。	《市史編さん資料について》 ・市史編さんの組織が永続的に続く保証はない。そういう機能を新資料館を作る時に取り込んでいくという視点を持って考えるべきなのではないか。 ・小さな博物館では学芸員をたくさんは雇えないため、事業や企画の中で連携、協力していただく、という方法はあると思う。ただ、市史が終わった時に、資料を最終的にどう活用保管していくかは、必ずどこかで直面する問題だと思う。 ・市史編さんや教育史の資料を一つに統合するところまでやらないとコアにはならない。あそこに持っていけば見てもらえる、揃っているというようになってほしい。 ・市の施設との連携が重要。美術館、図書館、市史との関わりは今この時点で考えたほうがよい。歴史の収蔵庫（歴史的公文書含めて）も必要	
《収蔵設備》 ・収蔵庫の中を見せる工夫について、保管の観点からいえば収蔵庫にはなるべく人を入れないのが望ましい。しかし、収蔵展示は来館者に魅力ある手法であり、博物館の機能を紹介する場ともなるため、年間で日を決めてバックヤードツアーなどを企画する。 - また、廊下などの共用空間に面する収蔵庫の壁面をガラス張りにし、光に強く、あまりデリケートでない資料の保管場所として見せるなどの手法は検討可能と考える。 ・収蔵庫は分野で分けるのではなく、収蔵環境での区分を検討する。	《収蔵設備》 ・周辺に拡張できるように準備 ・すぐに出せる状態で保管 ・収集、収蔵は広く作っていった方がよい。 ・保存スペースは用途に合わせて、分散整理し、倉庫は将来性を考えて、多い方がよいと思われる。温度管理もきちんとしていく。 《文化創造について》 ・文化創造による産物は、収集保管の収集に入るのではないか。地域遺産の発見、自然環境の保全も収集に入るのではないか。	《収蔵設備》 ・収納スペースがほしい。 ・発掘資料、収蔵庫が増える。見せられるものを収蔵 ・保存を前提としながらも収蔵庫の中を見せる工夫 ・歴史という学芸員がいるならば、当然それに関連した収蔵庫があってしかるべき。

事務局・庁内検討	アドバイザー会議	ワークショップ・中間報告会
《収集資料の管理について》 ・現在は紙の台帳をつけた後、できる範囲でデジタル化し、パソコン入力作業をしている。新資料館建設設計の中で、システムの導入も検討している。	《資料区分「自然」と「文化」について》 ・収集保管する資料も、自然と文化の資料という分類でよい。ようするに、人が関わったのではない自然と、人が関わって作り上げた文化の2つを対峙しておけば、だいたい全部になる。	
《現地保存について》 ・文書資料は文化生涯学習課、文化財は文化財担当がフォローアップしている。都市資源は丸博が対象としている。資料館はそれらが危機に際した場合に受け入れる、というすみわけをしているため、あえて記述はしていない。	《収集資料の管理について》 ・データベース化するのであれば、紙での台帳管理は必要ないのではないか。 ・台帳の登録が当たり前なら、文言は消したほうがよい。将来的にも必ず紙の台帳が必要になってしまう。	
	《現地保存について》 ・「現地保存を原則としつつ」と記載があるが、現地保存した資料の対象、体制について具体的記述がない。 ・茅ヶ崎市は歴史資料に関しては文化生涯学習課が関わり、所蔵者へのフォローアップを行っている。文化生涯学習課との連携、すみわけの視点を含めて考える必要がある。 ・収集保管方針の中に「現地保存を原則としつつ」と記述があり、そこを読み返せば、理解はできる。	

	事務局・庁内検討	アドバイザー会議	ワークショップ・中間報告会
3 新資料館の活動 (7)教育普及活動	《教育普及活動のテーマ》 「みんなで育む茅ヶ崎の誇り」 ・さまざまな学びや体験学習プログラムなどと世代を超えた交流を通して、新しい発見や学びへの好奇心を促し、茅ヶ崎の誇りや新たな創造とその発信につなげる。（新資料館の特徴となる活動） ・茅ヶ崎に関するレファレンス ・図書、資料の閲覧 ・学校教育の利用 ・回想法事業の検討・実施 ・調査研究活動、収集保管活動によって蓄積された茅ヶ崎の自然と歴史・文化に関する資料や情報をだれもが幅広く活用し、発信できるようにする。	《教育普及活動の方針》 ・地域コーディネーターの活用 ・出前講座の実施 ・長寿社会への対応（高齢者の知見を活用、回想法） ・情報発信	《教育普及活動の方針》 ・現資料館にいろいろ相談に訪れたことがあるが、新資料館もそのような施設（市民の疑問、問い合わせに応える）であってほしい。 ・人を集めるために何をしてもよいというわけではなく、博物館としての活動から離れてはいけない。 ・（博物館以外の活動が盛んになり）母屋を乗っ取るような活動があっても、それに対抗できる活動を行なってゆけばよい。（相乗効果でより良くなる）
	《活動メニューの充実、開発》 ・学校向け ・高齢者向け ・地域振興（まちづくり、安全、安心、防災）	《アウトリーチ活動について》 ・地域遺産展示としては、それぞれの現地に、アウトリーチの一種かもしれないが、展示を積極的に出していく、そうすると分館的な位置付けになると思う。ワークショップなどの活動も、博物館の敷地外に求めてもいい。	《活動メニュー》 ・学校との連携（児童、生徒、教員） ・講座（標本づくり、模型づくり、現地案内（自然観察会）、観察路） ・子どもが何度もくり返し、来たくなるには、仕掛けや工夫が必要
	《資料のデジタル化について》 ・必要性を認識して進めている。	《市民参加について》 ・より多くの人が参加し、訪れた人がさまざまな活動に参加して、発展していくことをめざすとよい。茅ヶ崎の場合、市民・利用者と一緒に活動してきたのが原点なので、市民と一緒に活動する中で、新しく訪れた人が新たに加わり、最終的により多くの人が訪れる、としていったほうがよい。	
		《デジタルデータベース化》 ・仮想空間の中でデジタル化した資料とするなど、デジタル媒体を利用した、データベースの構築、運用、利活用について計画しておく。 《資料のデジタル化について》 ・現時点でも動けるものは、体制をとったほうが負担が少ない。現資料館でデジタル化を進め、人事計画や運用体制を考えてはどうか。 ・大学生もインターンシップなどでアーカイブ活動に協力可能。活用してほしい。	
	《情報発信》 ・メディアの変化に対応（端末の変化、データの移行） ・豊富なメニュー（茅ヶ崎百科） ・国際性（“あらゆる文化は～地域の特殊性を通過してのち、共通な人間性に到達すべきもの”（伊福部昭）） ・資料を媒介として、人びとに学習の機会を保証し、育成していくことを目的とする。 ・モノの調査研究、収集保存という他の機能の充実により豊かな教育普及を展開し、新たな課題を生み出す。 ・レファレンスについては、インターネットなど多様な媒体を通して、市民・利用者が資料や情報を自由に調べることができるよう、必要な機器類や設備を整備	《資料の閲覧について》 ・誰でも資料を閲覧できる機能は、開かれた博物館という主旨から必要。資料が傷まない範囲で活用するために、閲覧の体制などを検討してほしい。 ・二次資料やデジタル資料をうまく使うことによって、資料と利用者との距離を補う。	《情報発信》 ・市民に発信する仕組み。広報、イベントなど ・大いに活動、宣伝し、誰もが入りやすい資料館にしたい。
		《図書館との連携について》 ・図書館では借りる図書を指定の施設に届けるサービスを進めようとしているので、今から計画しておけば、新資料館に届けてもらうことも可能。それができれば資料館の価値が高まる。 ・デジタル化、デジタル配信をすれば、スペースが節約できる。	

事務局・庁内検討

アドバイザー会議

ワークショップ・中間報告会

■文化財保護審議会委員より

《教育普及学芸員について》

- ・学芸員資格を持っている学校の先生を博物館に派遣して教育普及を行うなど学校との連携を図る。

《教育普及担当学芸員について》

- ・教育普及については、各専門分野の学芸員が兼務ではなく、教育普及専門の学芸員を一人雇用すべきである。2、3年で異動する事務職ではなく、恒常的にボランティア、学生、インターンシップをコーディネートし、展望を持って各分野、市民と繋がり活動できる学芸員が必要。基本計画の中に言葉として入れておいたほうがよい。
- ・学校との連携にも教育普及担当学芸員が必要。
- ・学校としては、窓口として教育普及担当学芸員がいると連携しやすい。
- ・専門の学芸員からより深く学ぶ機会を持ちたいが、資料館に行けるのは時間的、移動の制約があり、近くの学校に限られる。出張授業をしていただければ、子どもたちが資料館の存在を知り、成長してからも利用することが期待できる。
- ・学校の先生をコーディネーターとして博物館に置いている事例があるが、それについてはどうか。滋賀県立琵琶湖博物館では、教育委員会から学校の先生が2、3年の期間交替で異動してくる。支障があるということは聞いていない。博学連携の重要性を先生方が現場で訴えていくことができ、専門の教育普及担当学芸員が雇用できない場合の方策として考えられる。川越市立博物館でも、教育普及の係長クラスは必ず教員を配置している。
- ・専門的に普及を担当する、人に伝えることを第一に考える専門家は必要。学校における教育活動と、博物館における教育活動は、まったく違う。
- ・教員を異動で配置する場合も、学校と博物館の教育活動は違うということを前提に来ていただくことも考えられる。
- ・技術的に教育普及という専門性を持つ学芸員が必要である。

	事務局・庁内検討	アドバイザー会議	ワークショップ・中間報告会
4 施設整備	《施設整備の基本方針》 ・発表の場として（ギャラリー機能、展示什器、機器） ・活動の場として（作業スペース（会議、講義、工作）） ・その他必要機材を整備 ・調査研究の開放とその社会的還元を図る。 （例：地域自然環境・文化財調査、古文書を読む会、図書室、レファレンス、調査報告書の刊行） ・学習の場と貴会の確保 （例：ボランティア養成講座、各種研究会、土器づくり、文化財探訪、自然観察会、民具づくり、展示解説、資料の学習用貸し出し） ・受け身の学習から、自ら課題をみつけ取り組んでもらうことを主題とする。	《施設整備の基本方針》 ・文化資料館が培ってきた市民の活動を引き継ぐ。 ・市民活動スペース、発表の場の確保 ・講堂や講義室といった空間は分けて確保することが望ましい。 ・現状のままではなく、将来的にリニューアルを継続していく、ということを入れておいたほうがいいのではないか。作ったらそれで終わりというわけではない。常に市民のニーズに応えるようなリニューアル計画をしていくとしてはどうか？ ・収蔵庫は、将来収集活動が進むことも勘案して計画するべき。また、全部を博物館の中に収蔵するのではなく、埋蔵文化財などの収蔵は別に確保すべき。 ・博物館がなぜ必要かということを理解できれば、収蔵庫の問題も乗り越えられる。 ・今の想定で、本当に現資料が収まるか。もうすでに民俗資料は収まらないのではないかという感じがする。	《施設設備について》 ・敷居が低く、質の高いレファレンス ・入口に調べられるスペースを（ex. 登呂遺跡） ・景観や町づくりなどについて活動している。地質や地形、歴史的なものや生業などを踏まえてデザイン ・くり返し訪れたいくなる場所に。企画、資料の利用 ・余裕のある展示室、エントランスホールの確保が必要
	《市民交流スペース》 ・市民の参画及び体験学習の拠点 ・活動しやすい快適な空間と設備 ・茅ヶ崎を理解する資料の展示・公開 ・誰もが集えるオープンな空間 ・資料館で活動する人びとの姿が見えるオープンスペース ・開かれた空間で、社会教育活動の喚起、動機づけ ・新資料館としての使命と役割を果たすことができる空間・設備を備え、特に市民・利用者の主体的な活動や交流が館の象徴となる施設とする。 ・施設全体が、評価の対象となることを十分考慮する。	《市民交流スペースについて》 ・市民交流スペースは限られたスペースをいかに効率的に機能を高めるか、いろいろフリースペースにしたり、講座室にしたりすることは、リスクも考えていかなければならない。たとえば、そこで閲覧できるような資料を書架として整備する場合そこを使っていると、その時に来た方は利用できない。リスクと便利さと両方あるので、認識されたほうがいい。	《市民交流・活動スペースについて》 ・エントランスはインパクトのある、吸い込まれるようなもの。外へ、内への誘導 ・茅ヶ崎の全図、写真を床に。 ・ジオラマ、触れる模型。地形模型。海岸～丘陵 ・市民が入りやすい空間。オープンスペースで。 ・ワークショップの広場。多目的ホール ・まるごと博物館のコアとして情報を発信する。 ・大学などとの連携で、学生たちにも活動してもらおう。 ・最初から機能を決めてしまわずにフレキシブルに。活動しながら徐々に機能を増やし育てていく。 ・郷土料理など、くらしを科学し、昔の人びとの知恵や工夫を知る活動 ・知恵を出してくれるような人材に来てもらって、資料館の活動を豊かにする。
	《周辺環境との調和》 ・堤地区の立地条件を生かし、旧和田家、旧三橋家を一体的に管理・近隣の歴史・文化、自然をつなげることを意識した計画とする。 ・環境保全、周囲の景観、ユニバーサルデザインへの配慮を、施設全体で感じられる計画とする。	《敷地計画について》 ・全体の敷地の中の配置をもっと自由に考えられるのではないか。 ・河川を活かして、川とのつながりを意識した空間構成を考えてもらいたいと思う。	《周辺環境との調和について》 ・景観を守る、緑地を残したい。植生にあった景観をつくる。 ・絶滅種の（保全・保護に加え）復元を出来れば（野草、生物） ・テーマパークとして（例えば、お白洲の再現、江戸古式消防記念館併設、茅ヶ崎甚句大会、民謡大会、地元農家の即売所、古典芸能）
	《敷地利用計画》 ・大岡越前通り沿いの敷地を活かす ・周辺道路からのアクセスを意識した施設 ・隣接する駒寄川に配慮した施設 ・親しみやすい空間など、気軽に訪れることができる工夫 ・駐車場の確保や館への誘導標識・サインの設置 ・旧和田家・旧三橋家の活用	《集合スペース》 ・学校の遠足などへの対応は、バスは4台くらい駐車できればよいが、集合とか解散をする場所も必要。学年で動くことが多いので、学年単位で想定するといいと思う。	《敷地計画について》 ・湿地環境を残す。 ・民家で昔話を聞かせる。 ・市民スペース又は古民家で実際に火を焚いて囲炉裏を囲むような、調理や語りべなどの世代間の交流 ・道の駅のような農産物の販売 ・三橋家と和田家の2棟を移築すると敷地が狭く、広場もできない。 ・駒寄川の環境、湿地を活かした博物館にしてほしい。 ・池を作り、水を貯めて流せるようになるとよい。 ・敷地の中ほどから、浄見寺のほうへ渡る橋を作ってもらいたい。
		《アクセスについて》 ・香川駅やバス停からの誘導サインの設置や、公共交通機関に協力を求めるなど。	《アクセスについて》 ・アクセスの改善が必要。ルートを巡るようなコミュニティバスの増便が必要

事務局・庁内検討	アドバイザー会議	ワークショップ・中間報告会
《建築計画》 ・交流創造エリアを中心に、従来の博物館イメージにとらわれない施設構成 ・活動の様子が市民や利用者から見える工夫 ・だれもが安全・快適に利用できる施設 ・景観に配慮する。 ・維持管理や更新計画による持続可能な施設 ・快適さ（何度も何時でも利用してもらう、活動しやすさ、居心地の良さ） ・防災拠点（文化財を守ること、市民を守ること）	《諸室の配置について》 ・増築の考え方はあるのか？ ・主に収蔵庫を増築するとなると、それを考えて、搬入口とかエレベーターを計画する必要がある。 ・収蔵庫は、駐車場スペースへの増築、場合によっては2階に、という計画も書いておく。 ・研究、作業の部屋は必要 ・調査研究エリアはあるが、調査研究の場所がない。 ・「前室」と「研究室」「作業室」の間は清潔に保たなければならない。 ・小規模でも落ち着いて講演会が出来る講堂は作っておくべき。	《諸室の配置について》 ・講義室などは近くのコミュニティセンターを利用すればよい。 ・ボランティア運営によるカフェ ・エントランスで、中で何をやっているか見えるように。 ・収蔵庫を広く、ランニングコストを安く。 ・吹き抜けはもったいないので、2階部分を収蔵庫にすればよい。
《外観、エントランス》 ・地域博物館として ・茅ヶ崎らしさ ・通りからの見え方 例：伝統的な意匠や構造（夏期に南風を取り入れ、冬期は北風を防ぐ） 防風林（ケヤキ、カシ、タブ） 地域性のあるデザインを取り入れる。	《建築について》 ・建物の建築に関しては、敷地全体、ランドスケープの計画も含めて議論したほうがいい。 ・実際に、実施設計の段階でも活かされるような進行ができるといい。 ・屋上に出て周囲の自然環境が見られるレストスペースを作ってはどうか。	《建築について》 ・博物館の役割を理解してもらうために、収蔵庫も含め施設全体を見せる工夫が必要 ・テーマと建物のデザインの関連 ・自然景観を配慮しつつ、この環境にあった建物を建ててほしい。 ・相模原の話では、天上高が高いと照明代がかかる。円形のガラスは、お金がかかる。将来のメンテナンスも含めて、設計のたたき台を作ってほしい。 ・建物の外観はどうなるのか。マスコミが取り上げて人が来てくれるようなものにしてはどうか。
《立地、駒寄川について》 ・地盤改良、躯体の沈下を防ぐ杭が必要。北側の山からの流水で道路が冠水する状況もあり。雨水の貯水槽も設置 ・和田家の敷地は、大岡越前祭や桜の花見に使われており、地元からの存続の要望もあって、新資料館敷地への移築後はしない方向で民俗資料館の保存手法について再検討することとした。 ・駒寄川の現況は水路で、護岸に垂直の矢板を打ち込んでいる状態。上流下流は暫定の拡幅整備が進んでいるが、この部分のみ、資料館と合わせて整備		《立地について》 ・昭和3年の地形図、地図では家がなく、「しけ」（湿気ている）と呼ばれている土地である。地震の液状化など過去のいろいろなデータがあると思うが、将来に残そうと思うと心配である。
《景観》 ・茅ヶ崎らしさ ・現在の環境の維持、伝統的、歴史的景観の復元（里山） ・駒寄川との関係 ・四季を意識 ・潜在植生への配慮		《駒寄川について》 ・敷地内に水を引き込む。 ・低地のままにし、雨天時は遊水池にする。 ・多自然型護岸とし、川幅を広げ、川底に土が溜まる工夫をして、植物が生えたり、生き物が上がれたりする場所ができるようにするとよい。 ・造成後の池やビオトープは作る必要はない。
《その他》 ・収蔵状況を課題として表記 ・資料を集約して収蔵できない状況を記載 ・交流スペースの使用方法を明示 ・大岡越前祭開催に伴う浄見寺周辺（旧和田家含む）での浄見寺地元まつりや墓前祭への影響を配慮 ・民俗資料館「旧和田家」、「旧三橋家」の移築に関する条件などの整理・検討 ・大岡越前通りについては歩道設置事業を実施中で、文化資料館計画地の北面は平成28年度までに整備が完了する予定 ・今後の駒寄川整備に当たっては、これまで下水道河川建設課と協議してきた内容を踏まえるとともに、今後にも必要に応じて随時協議 ・駒寄川に沿うように管理用通路が必要		

事務局・庁内検討	アドバイザー会議	ワークショップ・中間報告会
《民俗資料館との一体整備について》 ・駒寄川の水路整備の中で橋をかけ、民俗資料館との一体的な管理運営を考えている。	《民俗資料館との一体整備について》 ・和田家周辺と一体で敷地計画を検討したほうがよい。	
《民俗資料館の有効活用について》 ・民族資料館旧和田家で対応可能	《民俗資料館の有効活用について》 ・和田家と三橋家の移築を見合わせたと聞いたが、和田家を有効活用して、民俗資料を展示してはどうか。費用はかかるが、小さな展示館を作り、民俗ゾーンとする、川の流れるの見えるところに自然館を作るなど、よい環境を利用して、楽しみを感じる展示にしてはどうか。展示スペースの解消と、わかりやすい展示を目指すのだったら、まだ考える余地はあるのではないか。 ・民具は動くことで情報が伝わる。民俗資料館を活用し、ボランティアの活動を導入して、新たな博物館活動を展開できる。 ・民家は使っていたほうが傷まない。人が流れるしくみをつくり、どんどん活用し、不備があれば市民からの声で予算がつくような、よい循環をしていったほうがいい。 ・民家を民具の半保存展示館という位置付けにすることはよいアイデアである。	
《スマートエネルギー計画への配慮について》 ・省エネへの配慮を記載。設計提案の与件とする。	《スマートエネルギー計画への配慮について》 ・神奈川県はスマートエネルギー計画を提唱し、自然エネルギーや再生可能エネルギーの利用を推進しているが、それに配慮して、水車や風車など、傍を川が流れているという立地を利用した整備ができるのではないか。ランドマークにもなる。	
《市立図書館の分室機能について》 ・図書館の推進している分室機能の一つとして、図書館の図書コーナーの設置を協議中。市内図書館が所蔵している地域史専門図書を新資料館で開架できるよう協議 ・現資料館が持っている文献を図書館の図書と一緒に開架することが可能 ・図書館から人が派遣されるため、新資料館の負担増にはならない。 ・他館から新資料館に集めた地域資料も取り寄せることが可能	《市立図書館の分室機能について》 ・図書館の分室機能の導入（閲覧、貸出）は、新資料館の負担にならないか。他の博物館の事例を参考にさせていただきたい。生命の星地球博物館ではライブラリアンが2人いるが、貸出はしていない。貸出は業務的に負担が大きい。 ・現資料館は文献を持っているのか。 ・図書館から人が派遣されて、業務はやってもらえるのか。 ・他館から新資料館に集めた地域資料も見せることができるのか。	

事務局・庁内検討	アドバイザー会議	ワークショップ・中間報告会
《展示の面積について》 ・表記面積で展示計画を検討。設計の範囲で増床を工夫 ・事務局で検討してきた展示の一番のポイントは、「可変」。面積は小さくても、可変の設備を設えて多くの資料を展示する。 ・学芸員が頻繁に展示替えを行いながら、資料を表に出す機会を増やす。作りこみの少ない展示を考えている。	《展示の面積について》 ・限られた規模の中で、収蔵に面積を割くのは正しい方向性である。交流創造エリアを十分に確保することも理解できる。しかし、展示部門の面積（300 ㎡）が狭く、今考えている展示テーマを十分に展開できるか気になっている。館の力の入れ具合が面積にも表れてくるのではないか。 ・展示には体力がいる。可変性を持つためには、大きな造作物ではなく現物で対応、それなりに規模を小さくしないと負担が大きくなる。 ・作り込みをせず、可変性を持たせる方向性はよい。しかし、常設展示の柱とする展示ストーリーは維持しなければならない。 ・想定面積の中で、個人的な実感で言うと、展示面積が少し小さい。企画展示をする際に、狭いと起承転結ができずに、逆に苦勞する。 《小中学生の利用について》 ・小・中学校の利用を前提とするならば、居場所づくりも必要 《学校対応について》 ・一番来館者が多く滞留する学校に対応するためには、展示室だけではなく、廊下などのスペースも確保することを意識したほうがよい。 ・茅ヶ崎の小さい学校は学年2クラス、大きい学校は学年7クラスある。最初と最後に集合できるスペースがほしい。一般の方に迷惑をかけないように気を付けて指導するが、飽きてしまった時に座れる場所、居られる場所もあるといい。 《施設規模の変更について》 ・当初2階建て 2,000 ㎡の案を提示したが、和田家・三橋家の移築がなくなり、景観アドバイザーのアドバイス、地盤の問題も考慮して、平屋建てを考えている。平屋にすると階段、エレベーターがなくなり、ある程度スペースを集約して延床面積を 300 ㎡減らした。収蔵庫は中2階を使ってスペースを確保した。 ・床面積は少なくなったが、展示面積は変わっていない。設計提案の与件とする。 《展示スペースの確保について》 ・交流創造エリアと展示収蔵エリアに分かれるが、展示収蔵エリアは堅牢な構造が必要なため、コストがかかる。これらの要素と事業費のバランスで計画している。提示しているのは、最小限必要なスペースで、プロポーザルで変わる可能性もある。	《展示の面積について》 ・市町村立博物館の望ましい設置基準は 2,000 ㎡。大磯町郷土資料館も 1,773 ㎡だが、狭いと共用する部屋が出てきたり、必ず何かを切ったりしなければならなくなる。300 ㎡の違いは結構大きい。 ・企画展の回転の頻度にもよるが、展示室そのものも十分表現できるかどうかの心配に加え、展示ケースを入れ替えたり保管したりする、展示準備室の面積も心配である。 《展示スペースの確保について》 ・西側に民家を移築しないということは、建物自身を西に延ばして、それで展示エリアを確保することはできないのか。 ・建築設計でいろいろ提案は出せると思う。プロポーザルの条件の中に、展示スペースは必ずしも十分ではないということを書いて、設計アイデアを募集すればよい。

	事務局・庁内検討	アドバイザー会議	ワークショップ・中間報告会
5 展示計画	《対象を基本としたテーマ》 「海と川と道が交わる実りの大地とくらしの記憶」（展示テーマ） 《展示の基本方針》 - 市民をはじめとする来館者と博物館のインターフェース - 時を経てなお魅力を失わない展示 - 次世代へ受け継がれるものを行政がしっかり造る。 - 普遍性（ビンテージ、特色） - 追加、更新、可変性（育てる、育つ） ・共感できる展示 ・地域博物館ならではの視点 ・共感を求める時代（AIDMA、AISAS） ＊AIDMA：Attention（注意）、Interest（関心）、Desire（欲求）、Memory（記憶）、Action（行動） ＊AISAS：Attention（注意）、Interest（関心）、Search（検索）Action（行動、購入）、Share（共有、商品評価をネット上で共有しあう） ・実物を重視（博物館でしか体験できないこと） ・デジタル化の潮流の中で非デジタル ・資料が有する価値を資料自体で表現する、資料の背後にある人間の生活を提示する、資料を観察する力を養う。 ・第三者が活用する事を前提とする。 ・モノとともに正確な記録（情報）がなければならない。 ・市民共有の財産であり、将来にも伝えていくことが条件 ・資料の状態を保ち、利用の安全を図り将来の人びとの学習の機会を保証する。 ・従来型の一方的な公開に留まらず、交流創造の取組と連動させた市民・利用者との双方向・交流型の活動とすることで、であいと交流、多様な茅ヶ崎の魅力の発見・再発見と発信を行う。 ・アウトリーチ事業について、一般市民が見て理解できるように配慮することが特に重要 《展示の種類》 - 基本展示（茅ヶ崎のあらましを伝える） - テーマ展示（トピック、企画展示、交流展示など） - 野外展示、館外展示	《展示の基本方針》 - 茅ヶ崎の大地をテーマとする（大地の生い立ちとして、南から砂丘地、沖積地、丘陵地から出来ている。最古の地層露頭） - 一般市民にとって博物館イコール展示 - これまでの実績から、展示に至る過程において市民との協同を大事にしているのはよくわかる。 - 長寿社会を見据えた、老人ホームでの移動博物館実施の例がある。 - 体験、交流、参加という新しい要素の活動と、公開承認施設並みの展示施設をめざすというオーソドックスな活動と、それほど広くない用地、建物内で、どう両立させるか。 - だれにも楽しめる魅力的な展示、ユニバーサルデザインなど、障害のある方への配慮は、活動展開の中にも入っていてもいい。 - 博物館そのものを紹介する展示があるとよい。博物館は何をやっているのか、学芸員は何をやっているのか、あるいは、市内の他施設との役割の違い、博物館がどうしてできたか、建設のプロセスの話など。 《展示分野について》 - 展示テーマと人員は可変な部分を残したほうがよい。 - 大テーマ「大地と人の物語」触れてもよいのではないか。 「先史から現代にいたる～」など歴史展示を行うことを明確にしてほしい。 - 文化財展や古美術展、歴史展、「現代文化展、啓蒙的な展示、など幅広い活動をめざす。 《象徴展示について》 - いろいろな団体から推薦してもらい、市民に投票してもらってはどうか。資料館ができる前から市民が資料館と関わりを持てる、みんなで象徴展示を作っていく仕掛けを提案したい。 《サテライト展示について》 - 新資料館は市の中心部から離れているため、新市庁舎内に資料館をPRするスペースを設けてはどうか。 《公開承認施設対応について》 - 専門家と一般市民の間のギャップを埋めるために、なぜそれが国宝、重要文化財なのか、一般市民にもわかりやすく気付かせるような展示が必要 - 公開承認施設は、重文の公開実績が一定件数あることが条件。継続的に重文を展示し、企画及び毎年の予算確保をしていく必要がある。周辺の市とも連携して広い視野で、「湘南」の文化財を扱うとよい。 - 民俗の場合、一つの博物館だと県指定文化財になりにくいのが、周辺の博物館とネットワークを組み、共同で企画して指定を受けることも考えられる（たとえば、相模湾の漁労具）。魅力ある企画展、巡回展もできる。	《展示について》 - 常設展示がマンネリにならないように、市民も一緒に作り上げる。 - 常設と企画展示のバランス - 市民が積極的にかかわる今の博物館を継承 - 魅力的な企画展 - 自然と文化を分けないように。くらしを中心 - 常設展示、変化のあるように。変えられるように。 - 展示替え、市民ボランティアで。展示に市民がかかわる。市民と一緒に企画展 - 学習に利用できる展示（歴史上の人物など） - 文教大学との連携。コミュニティセンターでの活動の発表 - 市史編さん資料、歴史資料の展示 - 下寺尾（の展示）とのすみ分け - かけらを触らせる、民俗資料が使えるなど - 原別荘の遺構が残っているが、その一部どこかに入れてもらえるとよい。 - 大岡越前つながりで、お白洲の模型みたいなもの作ってもらえればありがたい。

事務局・庁内検討

《シンボル展示について》

- ・当初は入口にシンボル展示を考えていたが、これぞ茅ヶ崎というシンボルを出すことが難しいので、いろいろな角度から月替わりなどで可変的に茅ヶ崎を示していくことを考えている。市史の調査研究の中で出てきた、軸となる物語をどういう資料で見せていくかが展示活動になっていく。
- ・グラフィックで見せる手法は考えている。今後、設計の中でよく検討していきたい。
- ・設計提案の与件とする。

アドバイザー会議

《シンボル展示について》

- ・展示物の中で、目玉になるような資料、茅ヶ崎を表す資料といった、具体的な資料の想定はあるか。
- ・多様性のあるのが茅ヶ崎というのはわかるが、展示を見に来た人は、何かシンボルが無いとがっかりする。意識すべき。
- ・象徴展示が資料である必要はない。大きなパネルにモニターを埋め込み、地域性を前面に押し出したり、地図や写真を置いたりするなど、モノが無くてもエントランス展示は工夫できる。
- ・海から烏帽子岩（レプリカ）を見て、茅ヶ崎に上陸していくようなイメージのエントランス構成を想像している。
- ・展示というのは意図的に演出しないと出てこない。いろんなものがあるというのが茅ヶ崎の特徴というのでは展示としてなかなか成り立っていかない気がする。気持ちとして入っていかない。
- ・常設展示の中にシンボリックなモノ資料として何かがあるというインパクトは捨てがたい。館蔵資料だけでなく、長期借用のような形でよい。たとえば、もう使っていない浜降りの神輿を神社から借用して展示すると、茅ヶ崎的でもあり、今後、検討してほしい。

《基本展示について》

- ・基本展示の想定で、自然の「地形・地質」と、歴史・考古の「地形の成り立ち」の地層、大地の形成が重複している。ここをうまくまとめ、ここから始まった生き物と人のくらしを振り分けられないか。構想概念図もアイディアがほしい。
- ・常設展示は 225 m²であり、どれだけのことができるのかとを感じる。民具はかさ張るので、先ほどの議論のように民家をうまく活用するなど工夫しないと収まらない。
- ・現代や未来の展示があまり無い。（現代の産業、発展している産業、宇宙飛行士など）また、サブカルチャー的な音楽、美術も取り込んで現代の文化、芸術を現代の内容に入れておくと、若い人や子どもも参加しやすい。
- ・展示手法でグラフィックとあるが、映像を使わないとモノだけでは理解できなと思うので、ぜひよい映像も作っていただきたい。

■文化財保護審議会委員より

《駒寄川改修で出土した岩石の展示》

- ・駒寄川の工事の際に出てきた岩石を保管をし、資料館建設後の野外展示で紹介する。関東山地や丹沢山地の岩石が出てくる可能性がある。

	事務局・庁内検討	アドバイザー会議	ワークショップ・中間報告会
6 収蔵計画	《資料の種別について》 ・温湿度環境に見合う資料を同じ収蔵庫の中に入れるという考え方は、設計提案の与件とする。 《見せる収蔵について》 ・現資料館でも市民参加型で資料整理活動をしている部分がある。今は講義室で活動しているが、新資料館では文化創造エリアというスペースを考えている。一時収蔵に耐えうる資料はそちらに置けるような設備を整えていければと考えている。 ・設計提案の与件とする。	《資料の種別について》 ・自然史資料として一括りにするのではなくて、さく葉標本、剥製、骨格、液浸など、保存に関する要件が違うものを種別として分け、部屋も分けなければならない。 ・民俗資料でも、木、紙などは細かくいうと違う。 ・分野による区分けでなくて、資料の劣化を前提とした温湿度環境に見合う資料を同じ収蔵庫の中に入れるという考え方というのはどうか。あまり負荷をかけない収蔵、ランニングコスト低減ができるのではないか。 《見せる収蔵について》 ・福井県立歴史博物館では「オープン収蔵庫」という、保管条件がデリケートでなく、本来、収蔵庫にあるようなものでまだ調査途中、整理途中の資料の整理を地元の人たちに手伝ってもらうスペースが用意されている。ボランティアの活動を進めていくのであれば、そのようなものも考えてみたらよい。 ・特に化石、岩石類は、光にも強く、温湿度もあまり関係ないため、積極的に博物館活動を見せる窓口になることが多い。ボランティアの人と一緒に活動しているところを見せる、ミドルヤード（バックヤードとフロントヤードの間）のような概念を作り、工夫してみる価値はあると感じる。 ・博物館そのものの質はこの収蔵部分で差が出る。展示も大事だが、本当の博物館の根幹の部分は、収蔵がどうできているか。それをぜひ意識していただき、今後の計画に反映していただきたい。	

	事務局・庁内検討	アドバイザー会議	ワークショップ・中間報告会
7 ちがさき丸ごと ふるさと発見博物館	《地域遺産展示》 ・ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業の成果をはじめ、市民と協力して調査研究し、収集保管した地域遺産の情報についてパネルや実物を用いた展示を行う。 （地域遺産を知り、訪ねるきっかけづくり）	《ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業について》 ・「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業（以下、丸博）」のコアとして。 ・地域遺産展示としては、それぞれの現地に、アウトリーチの一種かもしれないが、展示を積極的に出していく、そうすると分館的な位置付けになると思う。ワークショップなどの活動も、博物館の敷地外に求めてもいい。 ・「地域遺産」と「都市資源」の関係性について明示 （丸博は、都市型エコミュージアムとして、「都市資源」という呼称を使用）	《ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業について》 ・丸博のコアとして情報を発信する。 ・ネットワークのコア施設。全体のガイダンスが必要 ・市内の文化財散歩について、各団体の一元化を、資料館が指導して貰いたい。 ・博物館がそれらの縦割りの垣根を超えた活動の中心になるとよい。博物館が各活動を結びつけるコーディネート機能を担う。
	《アウトリーチ展示》 ・館外へ出張して展示を行う。 ・各種テーマに応じて組み合わせ可能な持出用展示ユニット、解説板パネルなどや展示の方法の指導・協力の開発も行う。	《資料の扱いについて》 ・資料については、丸博の市民グループに、一部管理を移管できないか。少なくとも、情報の共有化があってもいい。 ・民俗資料は町の中の蔵に収蔵させてもらって、丸博と連携して、年に1回公開するなというやり方も茅ヶ崎らしい。地域で使われていた民俗資料を各地域で保存して、かつ、活用をエコミュージアムの考え方でうまくやっていき、かつ、各地域の人が自分達で管理できれば、それは素晴らしい。	《情報発信について》 ・他の地域の人に知らせるという面がなかなか進んでいないのではないか。 （現地での解説、館内での情報提供端末など）
		《人材、役割分担について》 ・人の養成とか、人材のことも記載しておくといい。 ・基本的には、エコミュージアムというのは自立した活動であるはず、新資料館に負担がかかりすぎないように。 ・新資料館自体にかなり人と予算が必要な気がして心配。 ・茅ヶ崎全体を新資料館でやるのは重荷。うまく丸博との役割分担をしたほうがいい。	

	事務局・庁内検討	アドバイザー会議	ワークショップ・中間報告会
8 運営計画	《運営体制》 - 館長は事務員とともに庶務・財務・労務管理、企画調整・広報などに従事 - 正規の学芸員は、専門分野を持ちながらも複数分野を浅く・広く対応しながら市民との活動に従事。企画調整・広報などの業務も兼務 - 非常勤の学芸員は、専門分野の研究と正規学芸員・市民への支援 - 市民ボランティアとの効果的な協同運営を行うための制度の整理 ■文化財保護審議会委員より 《組織図の記載について》 - 館長以下、教育普及、自然系、人文系と体系的に図示する。	《運営体制について》 - 館長は兼務では実際仕事はできない。 - 館長が学芸員業務もこなせるとよい。博物館の専門家としての学芸員の業務ができる館長をと条件にし、館長を決定していくと、館の内容も見てもらえる。 - 一定人数の専門の正規学芸員は必要。 - 非常勤学芸員には制約があり、正規の学芸員あるいは専門職の館長が必要。 - 教育普及を担当する「コミュニケーター」に相当する専門的職員がいてもいい。正規でなくても特化した人材を雇用するとよい。 - 教職OBを非常勤で活用してはどうか。 - OBでなくても、現職の人事交流でもいいのではないかと。 - 一般の人と接するトレーニングを受けた専任職員が対応するほうが、博物館の特色になり、教育活動の核になる。 - 学芸員は役所の縦の組織で活動しているのではなく、各博物館や大学、研究機関と密接に結びついた横の関係性も求められる。 - 少なくとも自然、考古、民俗、歴史、普及の各分野の学芸員は必要 - 丸博との交渉役、つなぎ役も必要	《運営体制について》 最低でもこれだけの学芸員をちゃんと専門職として採用してもらいたい。
	《入館料》 無料（博物館法第 23 条に基づき）	《入館料について》 - もし公開承認施設をめざして重文を展示するのであれば、費用がかかるので、その際は有料にしても市民は理解してもらえるのではないかと。 - 巡回展は、他館が有料で、ここだけ無料というわけにはいかないこともある。	
	《目標来館者数》 ■教育委員より - 事業規模に対して目標来館者数が少ないのではないかと。 ■文化財保護審議会委員より - 近隣の博物館施設等の状況を鑑みて、年間 27, 000 人の目標来館者数は妥当なところである。	《その他のサービス》 ミュージアムショップがあれば非常にいい。博物館の魅力となる。	
	《人員計画について》 今の部署で引き継ぎ、担当していく。ただし、人員の要求はしていく。	《人員計画について》 - スケジュールで平成 31 年度に人員体制、運営づくりがあるが、この時期に学芸員や館長は採用されるのか。開館よりも数年前に採用して体制を作っていくような人員計画をしてほしい。 - 博物館準備室を作るのではなく、今の担当部署で引続き担当していくのか。 4 部門まとめて採用するのは大変なので、徐々に採用してもいいのではないかと。	《スケジュールについて》 - 早すぎるのではないかと。腰をすえて立地から建物、アクセス、下寺尾地区の官衙遺跡群との関連を考えながらすすめるべき。 - ハードのことだけではなく、たくさんのソフトがあるわけだから、そのスケジュールがハードと同じように必要ではないかと。
8 その他			